

中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」に伴う

平石地区・桐山地区発掘調査概要

—河南町所在平石古墳群の調査・千早赤阪村桐山遺跡の調査—

2000年3月

大阪府教育委員会

はしがき

南河内こごせ地区の農空間整備事業は、河南町平石地区と千早赤阪村桐山地区的2ヶ所において平成10年度より実施されています。大阪府下では両地区とも豊かな歴史的遺産に恵まれ、またそれを支える自然環境が最も良好に残された地域であることはいまさらいうまでもありません。この事業ではその自然と歴史を有効に活用し、都市住民との交流を通じて農業が進められるという新しい展望が示されています。

そのため、このたびの事業に先立って從来知られている埋蔵文化財も含め、当該区域のより詳しいデータを得る目的で調査を行いました。その結果の詳細は本書のとおりですが、平石地区では7世紀から8世紀にかけての古墳群に關連する遺物と新たに古墳1基の発見、桐山地区では南北朝期の造橋・遺物の存在が特に注目されます。これによってこれまでの知見が検証されただけでなく、その広がりや内容がより具体的に把握されました。このデータが今後事業が進捗する中で有効に活用され、府民全體の文化財に対する理解の一助となるよう願っております。

平成12年3月

大阪府教育委員会
文化財保護課長 小林 栄

例　　言

1. 本書は、大阪府教育委員会が、大阪府環境農林水産部の依頼を受けて府営中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」に伴い実施した平石・桐山両地区の平成11年度の発掘調査概要報告書である。
 2. 調査地は、大阪府南河内郡河南町平石および千早赤阪村桐山である。
 3. 調査は、平石地区を大阪府教育委員会文化財保護課技師調査第1係桥本忻が、平成11年9月30日に着手し、平成12年3月31日に終了した。また桐山地区は桥本および同係技師橋本高明が平成11年7月30日に着手し、平成12年3月31日に終了した。
 4. 本書で使用した方位は座標北を示し、標高はすべて東京湾標潮位(T.P.)で表示した。
 5. 本書の執筆は現地調査担当者が行い、編集は資料係技師井西貴子を中心に行った。
 6. 調査の実施にあたっては、平石地区・加納地区・桐山地区的地元の方々、河南町役場・千早赤阪村役場にお世話になりました。
- また、神戸商船大学名誉教授北野耕平氏に多大なるご教示をいただきました。記して感謝いたします。

目 次

はしがき

例言

| | |
|--|-------|
| I. 調査に至る経過 | 1 |
| II. 平石地区的調査 | |
| 1. 位置と環境 | 1 |
| 2. 調査の成果 | 1 |
| III. 桐山地区的調査 | |
| 1. 位置と環境 | 24 |
| 2. 調査の成果 | 24 |
| 報告書抄録 | 32 |
| 第1図 平成11年度調査区位置図 | 2 |
| 第2図 平石地区試掘調査位置図 | 3～4 |
| 第3図 ツカマリ古墳周辺試掘坑平面・断面図 | 6 |
| 第4図 アカハゲ古墳周辺試掘坑平面・断面図 | 7 |
| 第5図 加納2号墳試掘坑位置図（上） 各試掘坑主要出土遺物（下） | 8 |
| 第6図 シショツカ古墳周辺試掘坑平面・断面図 | 9 |
| 第7図 トレンチNo.1～7、9断面図 | 10 |
| 第8図 トレンチNo.8、10、12～16断面図 | 11 |
| 第9図 トレンチNo.17、18、20～24断面図 | 12 |
| 第10図 トレンチNo.25～30断面図 | 13 |
| 第11図 トレンチNo.31～38断面図 | 14 |
| 第12図 トレンチNo.39～46断面図 | 15 |
| 第13図 トレンチNo.47～54断面図 | 16 |
| 第14図 トレンチNo.55～61、63断面図 | 17 |
| 第15図 トレンチNo.64～71断面図 | 18 |
| 第16図 トレンチNo.72～78断面図 | 19 |
| 第17図 トレンチNo.79～86断面図 | 20 |
| 第18図 トレンチNo.87～94断面図 | 21 |
| 第19図 トレンチNo.95～102断面図 | 22 |
| 第20図 トレンチNo.103～111断面図 | 23 |
| 第21図 トレンチNo.1～5断面図 | 24 |
| 第22図 トレンチNo.6～12断面図 | 25 |
| 第23図 トレンチNo.13～18断面図 | 26 |
| 第24図 トレンチNo.19～25断面図 | 27 |
| 第25図 トレンチNo.26～30断面図 | 28 |
| 第26図 トレンチNo.31断面図 | 29 |
| 第27図 No.32（「楠公邸傳説地」石碑周辺）、 調査区断面・平面図 | 30 |
| 第28図 桐山地区トレンチ配置図 | 31 |
| 第29図 桐山遭跡現況図 | 34～35 |
| 図版1 平石地区（I） | |
| 図版2 平石地区（II） | |
| 図版3 平石地区（III） | |
| 図版4 平石地区（IV） | |
| 図版5 平石地区（V） | |
| 図版6 平石地区（VI） | |
| 図版7 桐山地区 | |
| 図版8 桐山地区 | |
| 図版9 桐山地区 | |
| 図版10 平石地区出土遺物 | |
| 図版11 桐山地区出土遺物（I） | |
| 図版12 桐山地区出土遺物（II） | |

I 調査区に至る経過

南河内ごせ地区における農空間整備事業は、農作業の省力化・効率化を図るために、大雨災害を受けにくい農地・農業施設を作り、豊かな自然遺産と歴史資源を有効に活用しつつ、都市住民との交流型農業の展開に寄与することを目的とし、平成10年から16年にかけて実施される予定である。農業生産基盤整備としてあげられているは場整備対象面積は総計55.7haで、この区域にはすでに多くの歴史遺産が知られている。本事業に先立ち、本課と事業主体である本府環境農林水産部とが協議を重ねた結果、桐山地区および平石地区的埋蔵文化財についてさらに詳しい具体的なデータを得る必要が生じて至った。今回報告するのは本課が農林水産部からの依頼を受け、上記の目的で両地区的試掘調査を実施した結果である。

II 平石地区の調査

1. 位置と環境

今回の調査地平石地区は、大和との分水嶺のひとつ岩橋山とその北方の竹内峠との間に位置する當麻町への間道平石峠から西方富田林方面へ通じる街道に沿っている。平石川の溪谷により刻まれた南北の山塊のうち、北方からは一須賀古墳群の展開する東山・葉室の支脈がこの溪谷に向かって数カ所で舌状に張り出している。古墳時代後期から終末期にかけては河岸段丘を見下ろす山塊の先端部にいたるまで古墳が築かれた。平石古墳群、その西南の加納古墳群がそれである。また平石川上流の支流横谷南方にもこの時期の持尾古墳群が知られている。それ以降この地域での主な遺跡としては鎌倉時代末期の石造十三重塔をもつ高貴寺境内、南北朝時代の平石城跡などが挙げられる。

2. 調査の結果

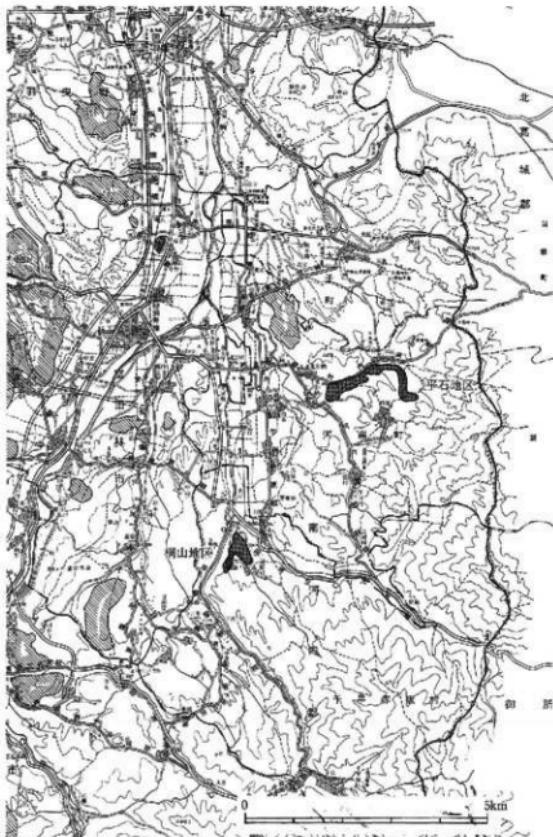
a) 調査の方法

加納から平石を経て持尾に至る平石川両岸の溪谷地形に沿う工事計画面積約11.7haを調査対象として、1m×2mの試掘坑を設定し、人力にて表土以下地表面に達するまで掘り下げ、遺構・遺物の確認に努めた。調査対象区域はすべて棚田が発達し、その造成のため削平が顕著な部分では耕土直下が地山となる部分も多く、本来の自然地形の上壤堆積状況を掴むためにさらに試掘坑を設け、結果として計111箇所となった。試掘坑の設定位置については、工事計画全域に片寄りなく網羅するよう努めたが、周知の遺跡として知られるツカマリ古墳、アカハゲ古墳、加納2号墳などの終末期古墳や現平石集落内の「坊ノ尻」・「大門」・「舍利」など遺構の存在をぼうぶつとさせる地籍名の残る田畠には特に注意を払ったつもりである。すべての試掘坑について土層断面図を作成し、写真撮影を行い、上記の古墳周辺部では検出した集石箇所の10分の1の平面図を補足し、

100分の1の平板測量にて試掘坑と古墳との位置関係を図化した。また今回「シショツカ」の地籍名を残す地点で新たに確認した古墳については試掘坑を南北に拡張して同様の作業を実施した。平石川の支流横谷の狭隘な渓谷両岸には良好な地形はなく、数カ所の試掘坑を設定するに留めた。なお測量は4級基準点(全体図上のA401~407)に基づいて行った。

b) 層序

土層の堆積状況は一様ではない。北の山麓部から南の渓谷に向かって下る緩急の傾斜面は平均比高差1.5~2.2mの段状に削平され、耕地が確保されていった関係上、基本的には高所の土を低所に盛る状況がうかがわれる。北から平石川に注ぐ谷地形とそれを挟んで舌状に延びる山塊の組合せが加納地区から平石地区にかけて数カ所認められ、山塊先端に上記の古墳が築かれる。この付

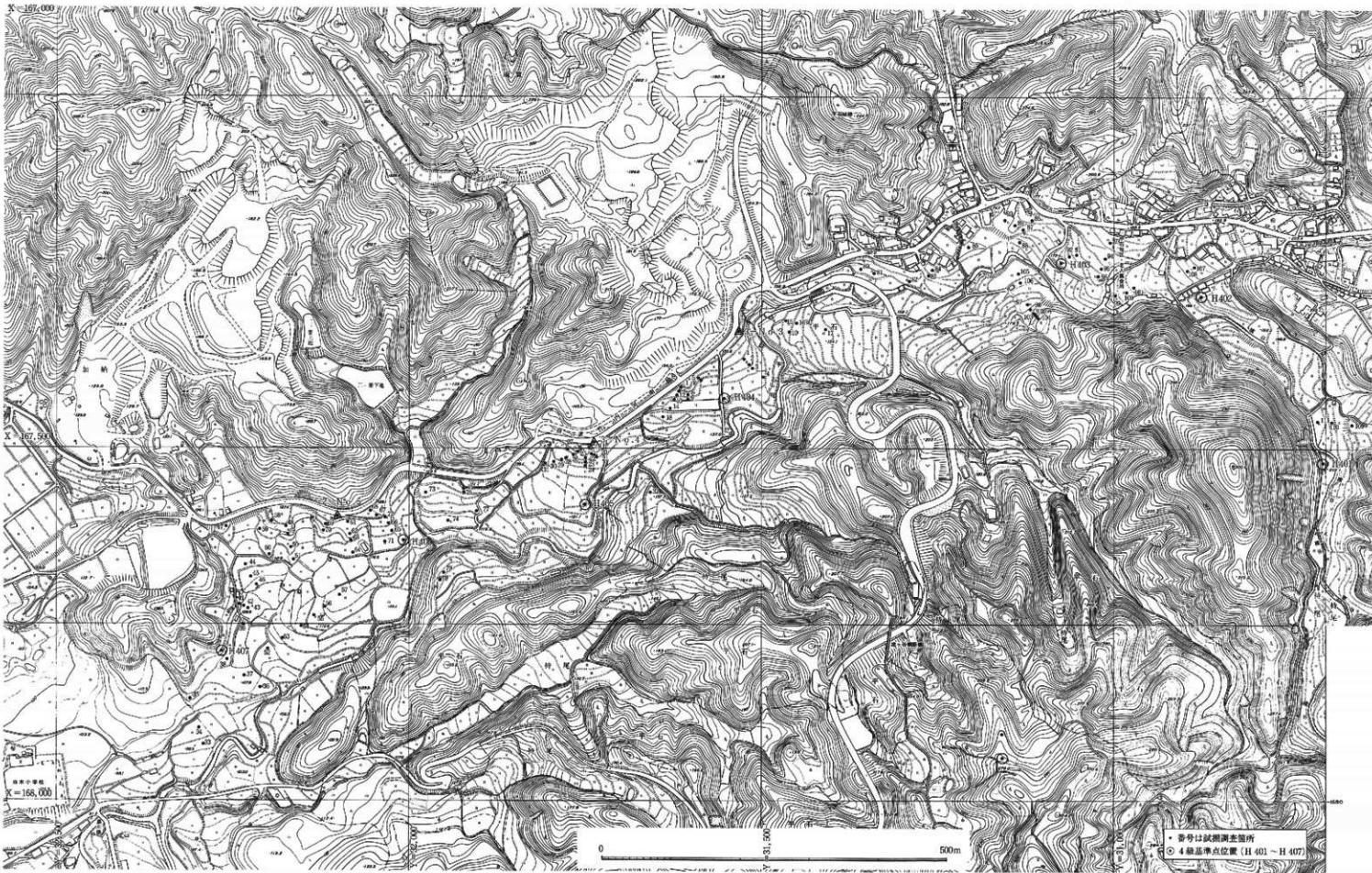


第1図 平成11年度調査区位置図

近を中心に黄色砂質土上に中世包含層、その下に古墳周辺では墳丘裾部とそれに関連するとみられる石のまとまりがみられた。谷筋にあたる田畠では軟弱な粘土質の土壤が堆積し出水があった。平石集落内では渓谷に大きい岩石が露呈する状況がみられ、これがそのまま地山となり、耕土直下に岩の突き出すところも多い。ただし渓谷に下る数段の畠地では中世遺物を比較的多く含む耕作土と思われる土層が累積して認められ、このことから平石集落の発達上中世がひとつの二期であったと推定できる。サヌカイト製品や剥片、須恵器などが中世包含層に混じっている。

c) 検出された遺構・遺物

周知の古墳周辺部ではツカマリ古墳、アカハゲ古墳、



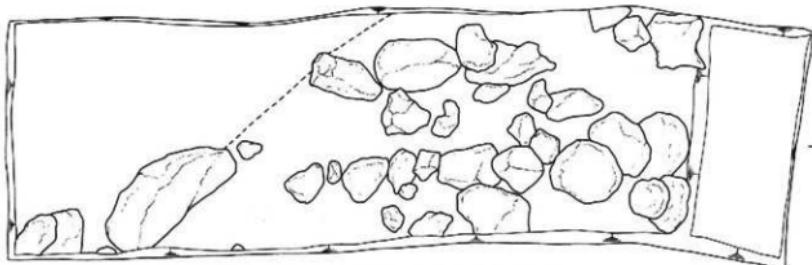
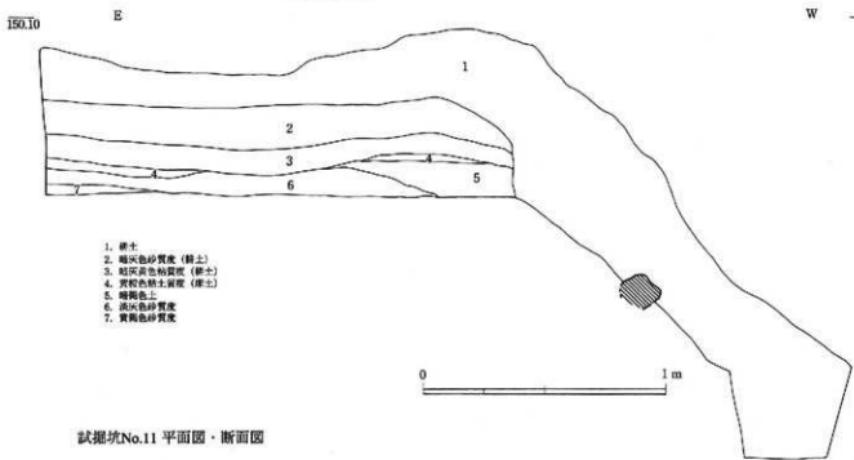
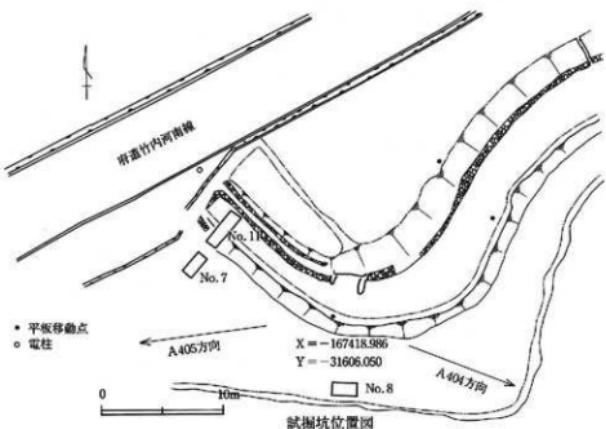
第2図 平石地区試掘調査位置図

加納古墳の3地点で、図示したように墳丘裾部と思われる傾斜面と集石が確認された。アカハゲ古墳直下のNo20では黄褐色有蓋円面鏡の蓋片が出土している。これはかつて行われた発掘調査の出土品中みられるものと同じ器の蓋の破片である。(『飛鳥時代の古墳』奈良国立文化財研究所飛鳥資料館編 1981年 P38) 加納2号墳開口部下に設定した試掘坑No42では須恵器甕体部片、それより南の試掘坑No38では8世紀前半の須恵器平瓶のほぼ完形品が出土した。

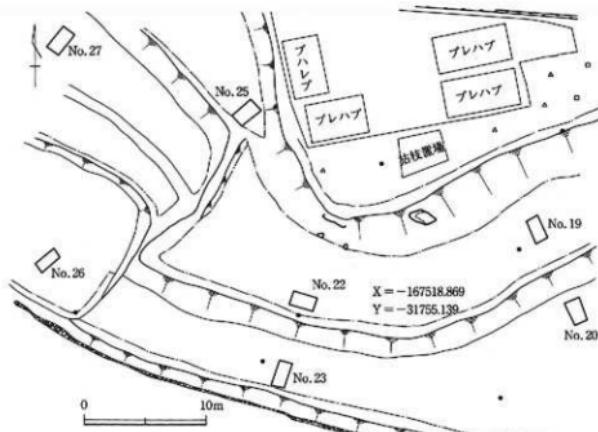
加納古墳とアカハゲ古墳との間に北から張り出す尾根が2つあり、その間に二ヶ釜池より平右渓谷流れる谷筋がある。今回発見された古墳はこの谷筋により分けられた南側尾根の先端部の地籍図に残る「シショツカ」の位置にある。当初のNo62試掘坑を南北に拡張して掘り下げた結果、現地表面より1.25mの深さで犬井石と思われる2枚の石が出土した。検出部分での南北最大長はそれぞれ1.6m、2.6mで、耕土以下それに至る層厚1.1mは、厚さ3~15cmの薄い砂質・粘土質の土壤を水平に固く積み重ねたいわゆる版築盛土となっている。ただし南端の傾斜面では西側に盜掘によるための攪乱坑が確認され、また東側ではそれに先立つ傾斜面崩壊土も観察された。この盜掘坑から石室構築材あるいは閉塞石と思われる板石片が出土し、これにサヌカイト片が混入していた。これに南側の一段低い狭小な田では表土面から(0.45m)下で数個の石が存在することがボーリングにより確かめられた。No62試掘坑の北側に設定したNo61ではこのような版築状盛土は観察されず、耕上・床上以下灰褐色系の軟弱な粘質土～粘土の堆積がみられ、表土以下1.5m掘り下げてもNo62北半部で認められた黄色地山面は確認できなかった。地元ではこの田は「富士山田」と呼んでいるように、平面的には富士山の頂上のような台形の立ち上がりを思わせる。南に張り出するその突出した形が古墳盛土の旧来の地形をいくぶんか留めているとも考えられる。

3.まとめ

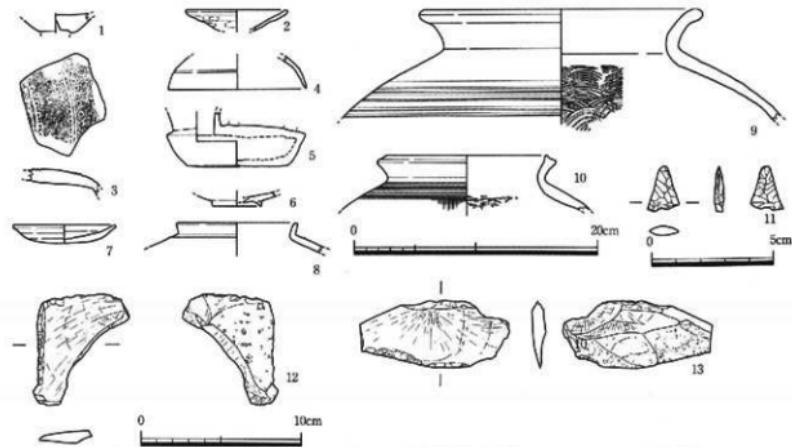
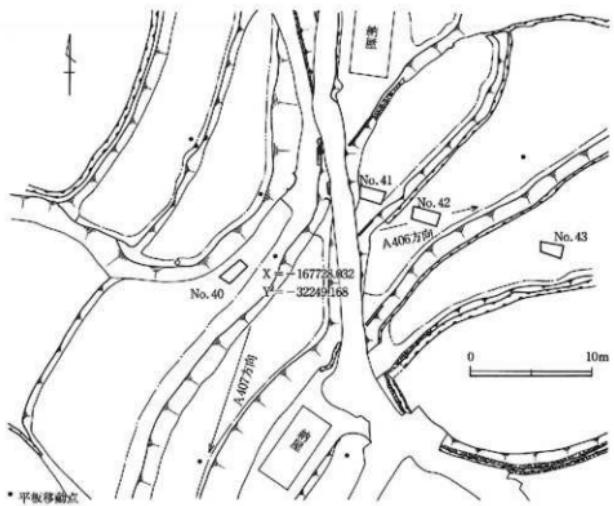
- 1) 北～北東から南～南西にかけて延びる尾根が現在の加納～平石を結ぶ府道により断ち切られているが、それより南側の先端部傾斜面を利用した古墳が新たに発見された。この立地は從来の古墳のそれと同じであり、平石渓谷の右岸の顎著な地形を選んだ築造意図がうかがわれる。
- 2) 従来知られている古墳周辺部では古墳裾部の状況が断片的ではあるがうかがわれた。ツカマリ古墳、アカハゲ古墳の段落ち、石のまとまり、アカハゲ古墳裾部No20での有蓋円面鏡蓋片の出土、加納2号墳周辺での須恵器、とくにNo38試掘坑での平瓶の出土である。古墳周辺でのこのような遺物の出土は土地の改変に伴って破壊された結果もたらされたと考えられ、周辺の精査が進めばさらに古墳関連遺物が出土する可能性は高い。
- 3) 平石集落域での試掘坑では注目すべき地籍名があるが、遺構の検出には至らなかった。また削平が激しいが、中世遺物包含層の存在が確かめられ、中世集落の存在が予想される。
- 4) 以上の地点以外は、すべて中世の耕作土の堆積が観察され、効率のよく生産性をあげるために田畠の確保の造成が大なり小なり繰り返し行われてきた実態をうかがうことができる。なお、これらの土層ではほとんど全体的に瓦器、土師器、陶磁器の破片が出土している。



第3図 ツカマリ古墳周辺試掘坑平面・断面図



第4図 アカハゲ古墳周辺試掘坑平面・断面図



1(No.6 4号 土器盤形杯)
2(No.15 5号 土器器小皿)
3(No.38 9号 陶器器平底)
4(No.34 3号 陶器形杯)

5(No.42 13~14号 陶器器深)

6(No.45 4号 瓦器碗)
7(No.106 3号 土器器小皿)
8(No.74 13号 陶器器深)

9(No.42 13~14号 陶器器深)

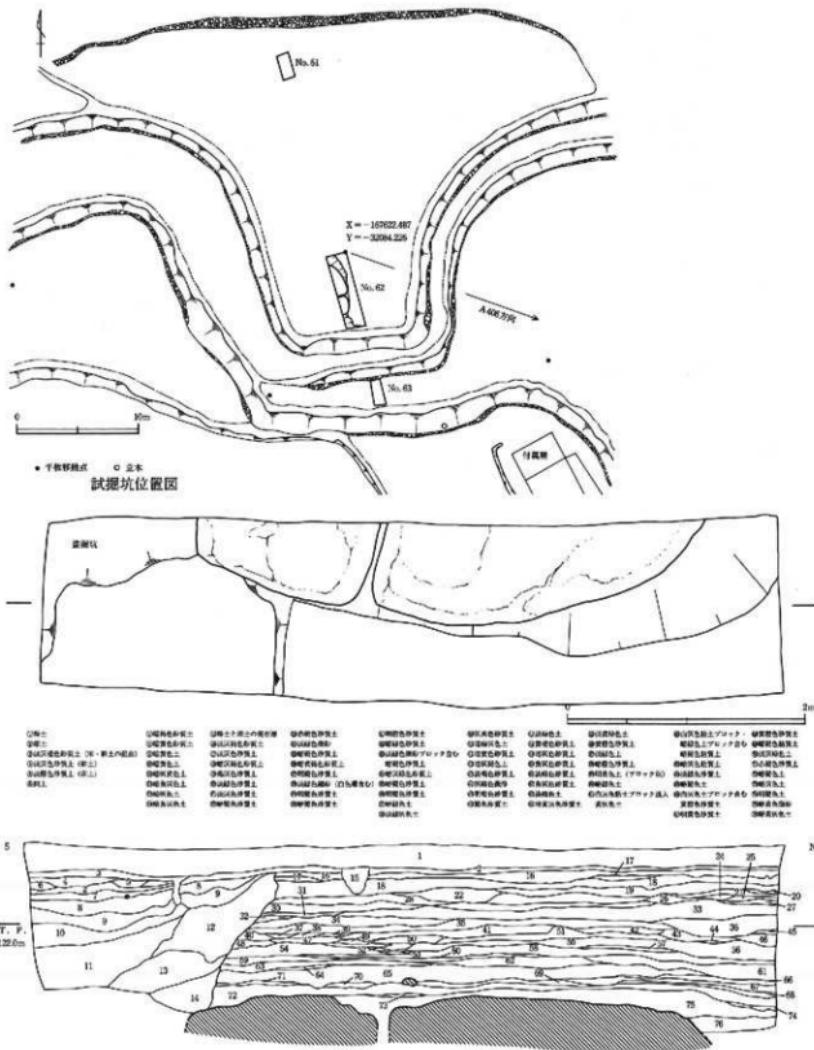
10(No.74 13号 陶器器深)

11(No.64 8号 サヌカイト石器)

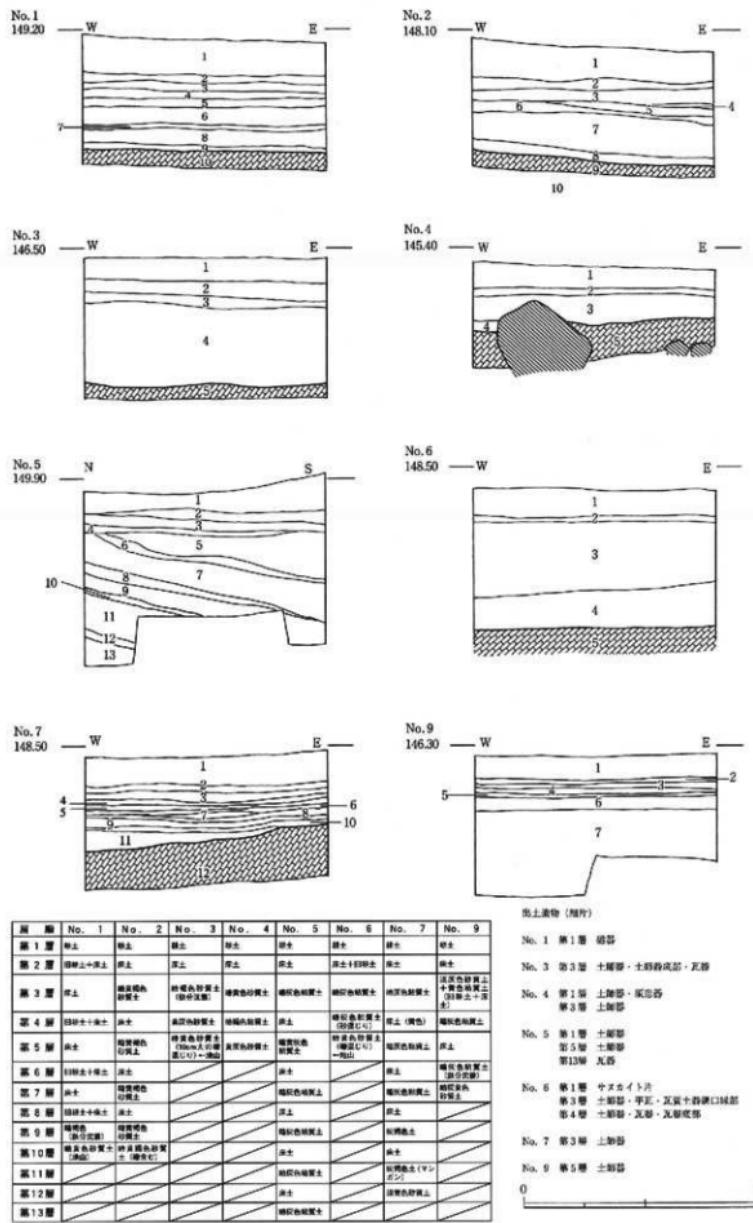
12(No.62 9号 (瓦面瓦片) サヌカイト瓦器)

13(No.37 3号 サヌカイト瓦器)

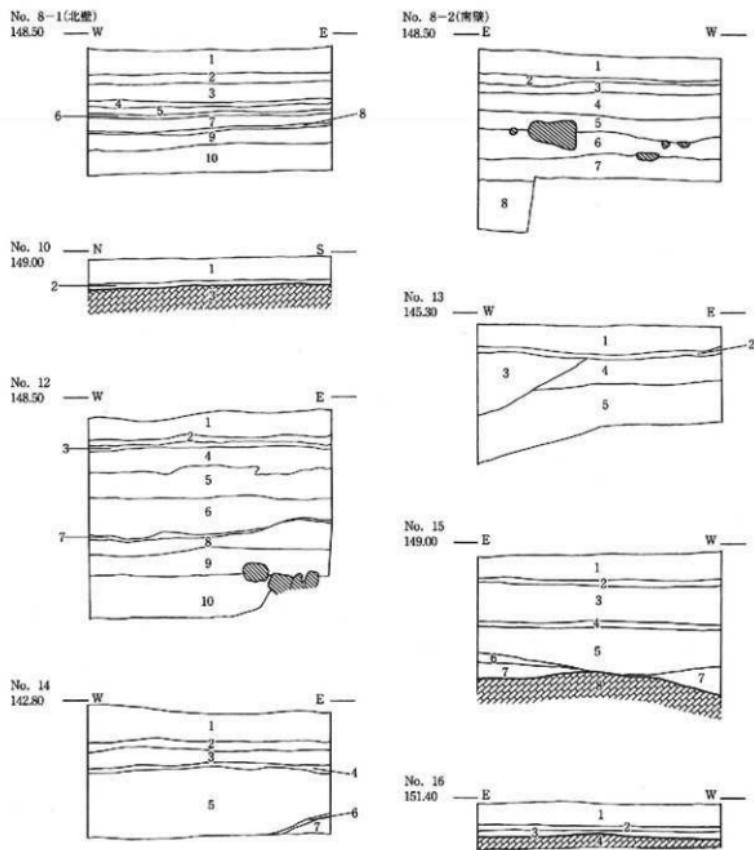
第5図 加納2号墳周辺試掘坑位置図(上)
各試掘坑主要出土遺物(下)



第6図 シシヨツカ古墳周辺試掘坑平面・断面図



第7図 トレンチNo. 1～7、9断面図

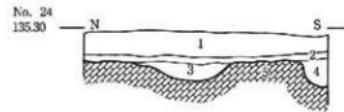
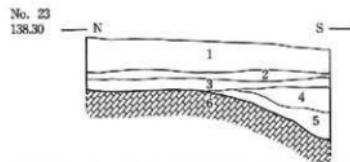
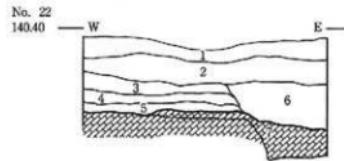
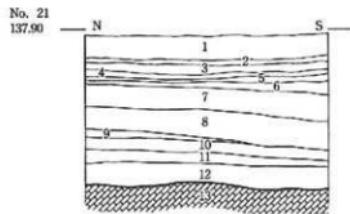
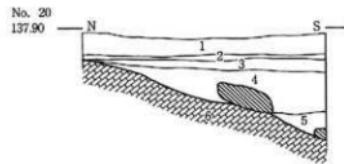
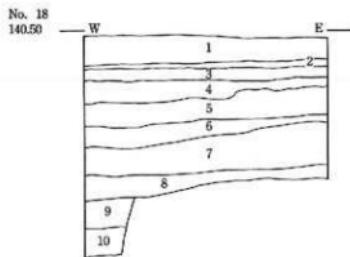
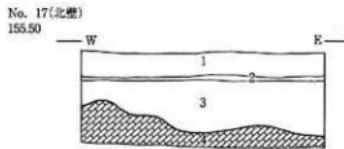
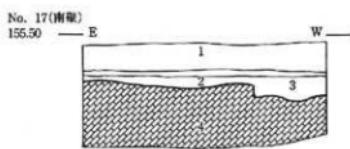


地土透視(柱状)

| 層 | No. 8 (北壁) | No. 8 (南壁) | No. 10 | No. 12 | No. 13 | No. 14 | No. 15 |
|------|-----------------|-----------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 第1層 | 砂土 | 砂土 | 砂土 | 砂土 | 砂土+砂質土 | 砂土+砂質土 | 砂土 |
| 第2層 | 灰土 | 灰土 | 砂質土 | 砂土 | 砂土 | 砂土 | 砂土 |
| 第3層 | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 青灰色砂質土 | 砂土 | 砂質土+砂質土 (砂質土) | 砂質土+砂質土 (砂質土) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) |
| 第4層 | 灰土 | 灰土 | 淡褐色 砂質土 | 淡褐色 砂質土 | 淡褐色 砂質土 | 淡褐色 砂質土 | 淡褐色 砂質土 (淡褐色) |
| 第5層 | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) |
| 第6層 | 灰土 | 灰土 | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 暗褐色 (土) | 暗褐色 (土) | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) |
| 第7層 | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) |
| 第8層 | 灰土 | 灰土 | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) | 暗褐色 砂質土 (淡褐色) |
| 第9層 | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 灰土 (砂質土) | 灰土 (砂質土) | 灰土 (砂質土) | 灰土 (砂質土) | 灰土 (砂質土) |
| 第10層 | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | 淡褐色砂質土 (淡褐色) | | | | | |

No. 8(北壁)第2層 土如器
No. 10 第1層 破器
No. 12 第4層 土如器
第5層 上鉢器・土器器裏
第6層 下鉢器・瓦器
第7層 土如器
No. 13 第3層 瓦器・火炎?
No. 14 第1層 破器
第3層 瓦器削型口縁部?
No. 15 第1層 土如器・破器・近代ヒヨウツク軸台
第5層 土器底・京司へそ皿・土鍋器・瓦器
破器
0 2m

第8図 トレンチNo. 8、10、12~16断面図



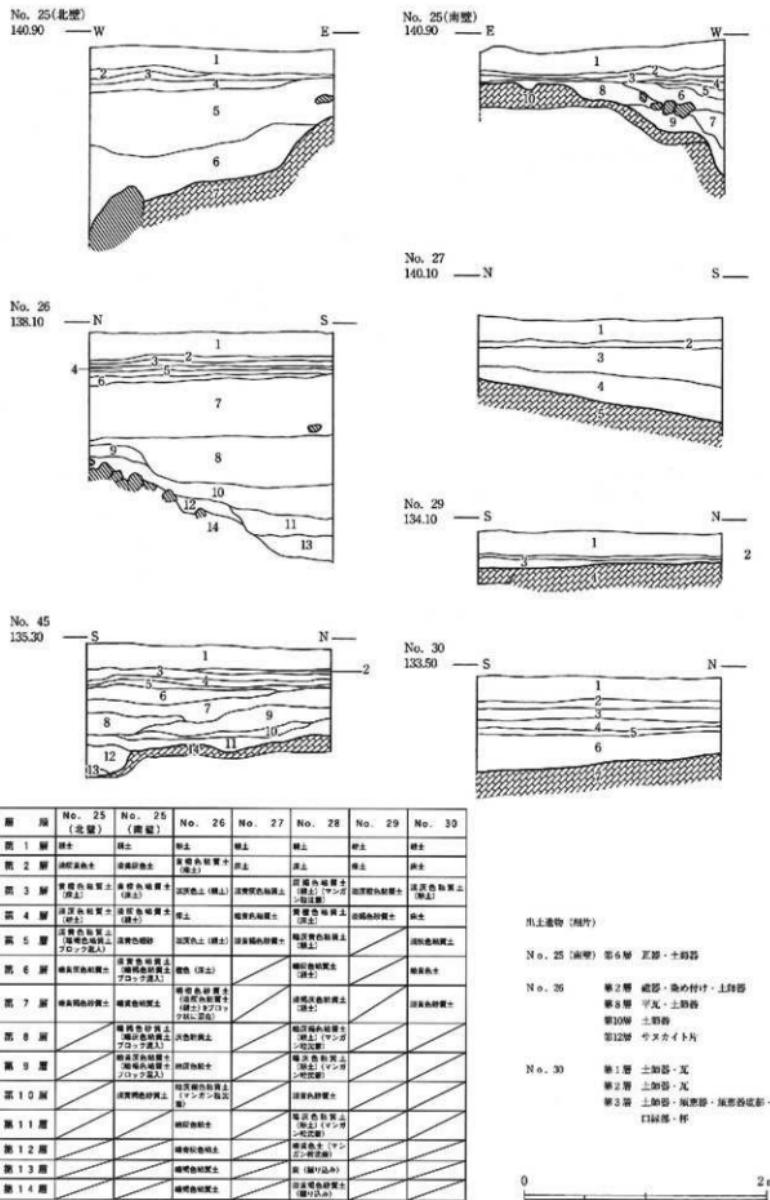
| 層 | No. 17 | No. 18 | No. 20 | No. 21 | No. 22 | No. 23 | No. 24 |
|--------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 第 1 層 | 砂土 |
| 第 2 層 | 土 | 土 | 土 | 土 | 土 | 土 | 土 |
| 第 3 層 | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) |
| 第 4 層 | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) |
| 第 5 層 | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) |
| 第 6 層 | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) |
| 第 7 層 | 粘土 |
| 第 8 层 | 粘土 |
| 第 9 层 | 泥炭地質土 | 泥炭地質土 | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) |
| 第 10 层 | 泥炭地質土 | 泥炭地質土 | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) |
| 第 11 层 | 泥炭地質土 | 泥炭地質土 | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) |
| 第 12 层 | 泥炭地質土 | 泥炭地質土 | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) |
| 第 13 层 | 泥炭地質土 | 泥炭地質土 | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) | 泥炭地質土 (シラカバ地質土) |

出土物 (廻所)

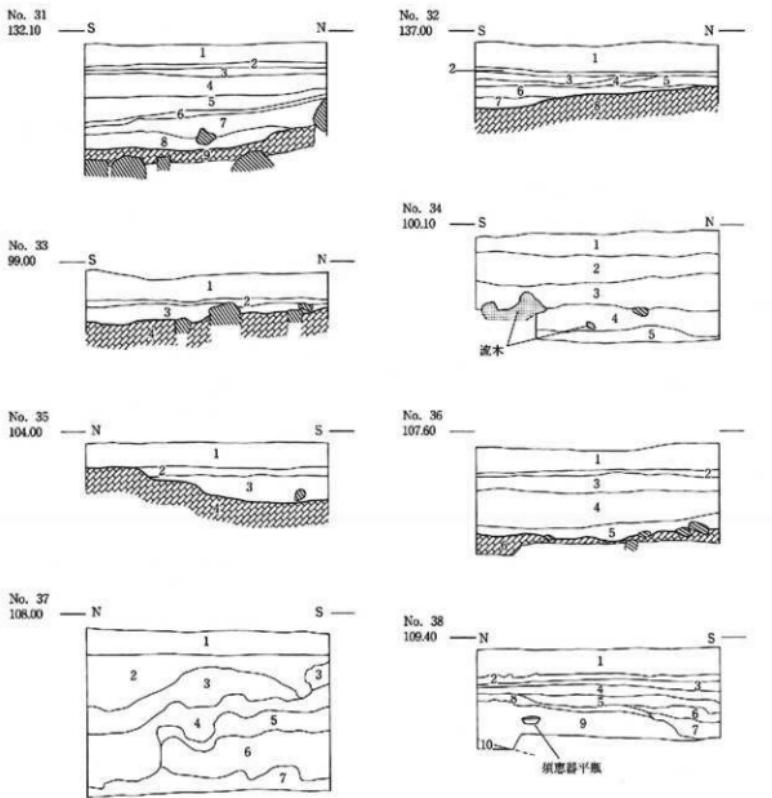
- No. 18
 - 第 1 層 砂器
 - 第 2 層 鉄製品底盤
 - 第 7 層 瓦器、土器器、土加且、灰化器ナマ焼け
- No. 20
 - 第 4 層 陶器器、鏡器、土器器、瓦器
- No. 21
 - 第 10 層 瓦器器、土器器、瓦器
- No. 22
 - 第 5 層 土器器細片
- No. 24
 - 第 2 层 十字架
 - 第 4 层 サスカイト片

0 1 2 m

第9図 トレンチNo. 17、18、20～24断面図



第10図 トレンチNo. 25~30断面図



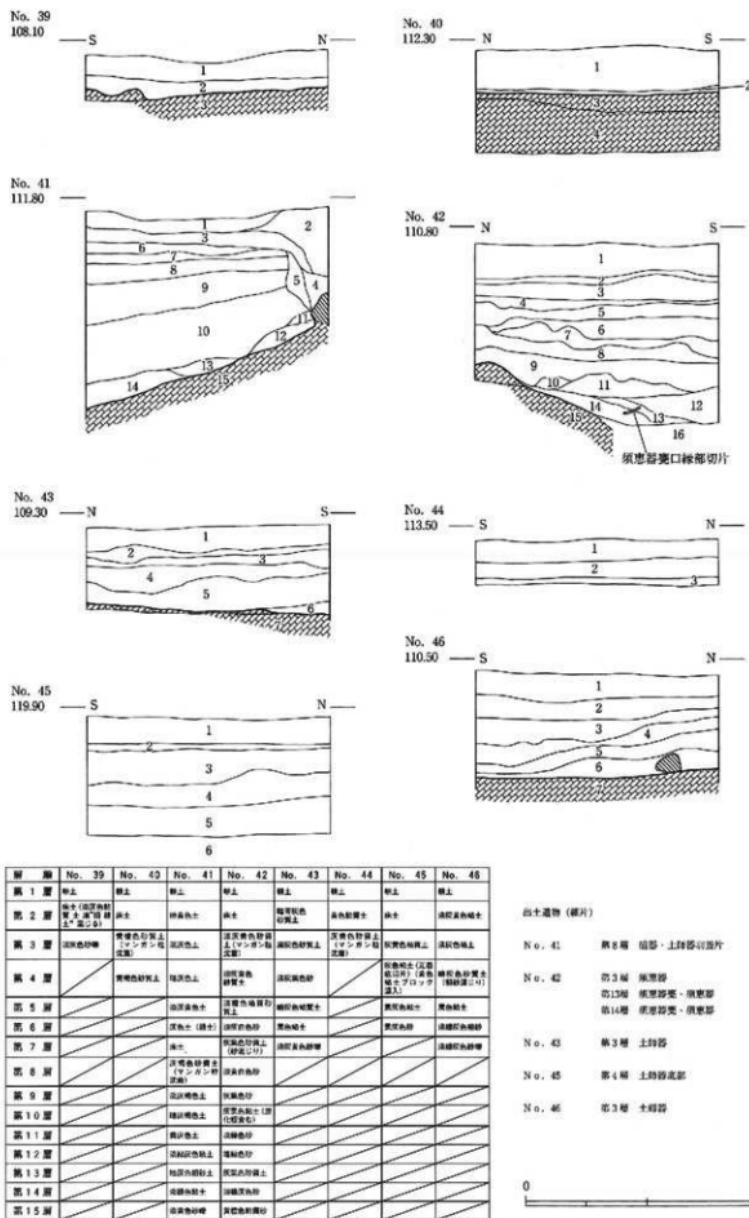
| 層 標 | No. 31 | No. 32 | No. 33 | No. 34 | No. 35 | No. 36 | No. 37 | No. 38 |
|-------|--------------------------|-------------------|-------------------|---|---|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 第 1 層 | 砂土 | 砂土 | 砂土 | 砂上・砂質土 | 砂土 | 砂土 | 砂土 | 砂土 |
| 第 2 層 | 泥土 | 泥土 | 泥土 | 泥土 (上部は水成 泥土) | 泥土 | 泥土 | 泥土 | 泥土 |
| 第 3 層 | 赤褐色粘土質 土(粘土質土) | 赤褐色粘土質 土(粘土質土) | 赤褐色粘土質 土(粘土質土) | 赤褐色粘土質 土(粘土質土) | 赤褐色粘土質 土(粘土質土) | 赤褐色粘土質 土(粘土質土) | 赤褐色粘土質 土(粘土質土) | 赤褐色粘土質 土(ヤシガル野 原土) |
| 第 4 層 | 褐褐色土上 シングル斜面 | 泥土 (砂土) | 泥土 (砂土) | 泥土 (10~30cm 厚・軟弱 付近は多量の 砂土) | 泥土 (10~30cm 厚・軟弱 付近は多量の 砂土) | 泥質粘土 | 泥質粘土 | 泥質粘土 セメント化 セメント化 |
| 第 5 層 | 赤褐色粘土質 土(粘土質土) | 泥質粘土 | 泥質粘土 | 泥質粘土 (20cm 厚) | 泥質粘土 | 泥質粘土 | 泥質粘土 セメント化 セメント化 | 泥質粘土 セメント化 セメント化 |
| 第 6 層 | 褐褐色土 | 泥質粘土 | | | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) |
| 第 7 層 | 褐褐色粘土質 土(ヤシガル野 原土) | | | | | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) |
| 第 8 層 | 褐褐色土 | | | | | | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) |
| 第 9 层 | 泥質粘土質 土(ヤシガル野 原土) | | | | | | | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) |
| 第10層 | | | | | | | | 泥質粘土 (土壁・軟弱 付近は多量の 砂土) |

山止地層 (標片)

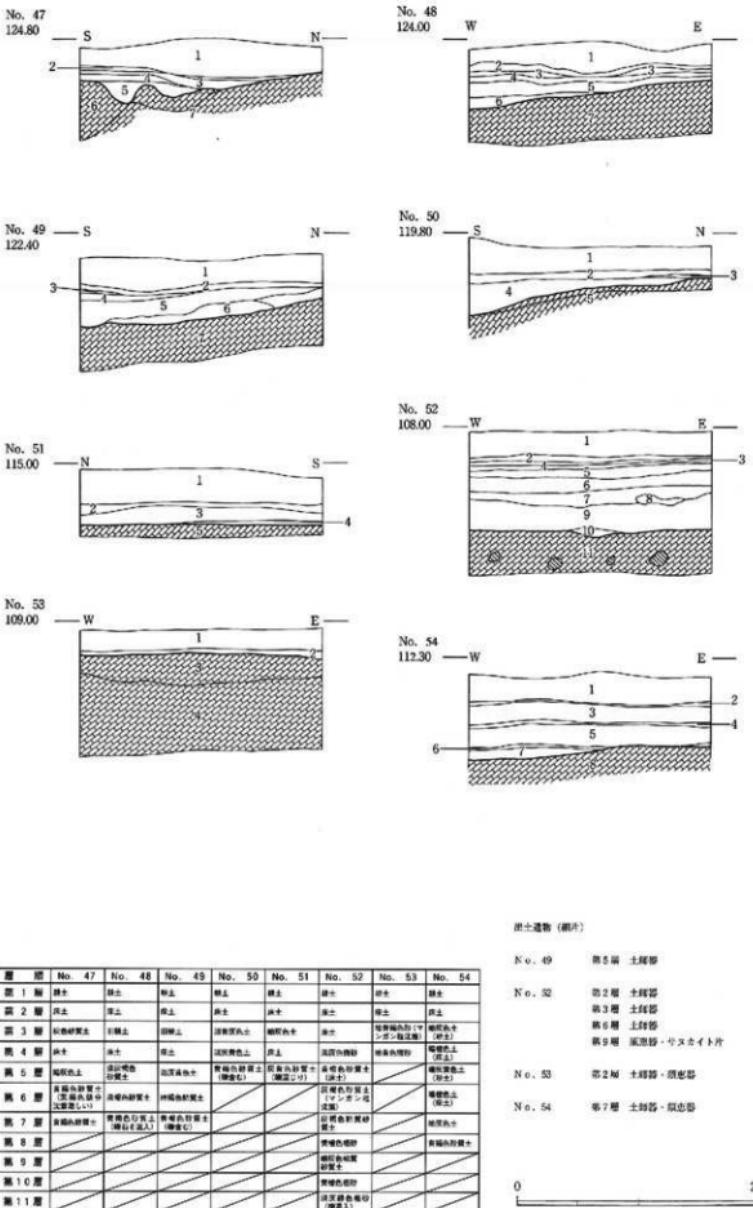
- No. 31 第7層 土壁部・サメカイト片・瓦器・瓶芯器
- No. 32 第7層 上部部・瓦器
- No. 33 第3層 土壁器・須恵器体
- No. 34 第3層 上部部・サメカイト片・瓶芯器
- No. 35 第1層 瓶芯器
第2層 須恵器
- No. 36 第3層 土壁器・サメカイト片・瓦器
- No. 37 第2層 サメカイト片
第3層 サメカイト片・サメカイト不定形刃器
- No. 38 第1層 土壁器
第2層 土壁部・瓦器
第3層 上部部・瓦器
第4層 瓶芯器平底
第5層 土壁器・瓦器

0 2 m

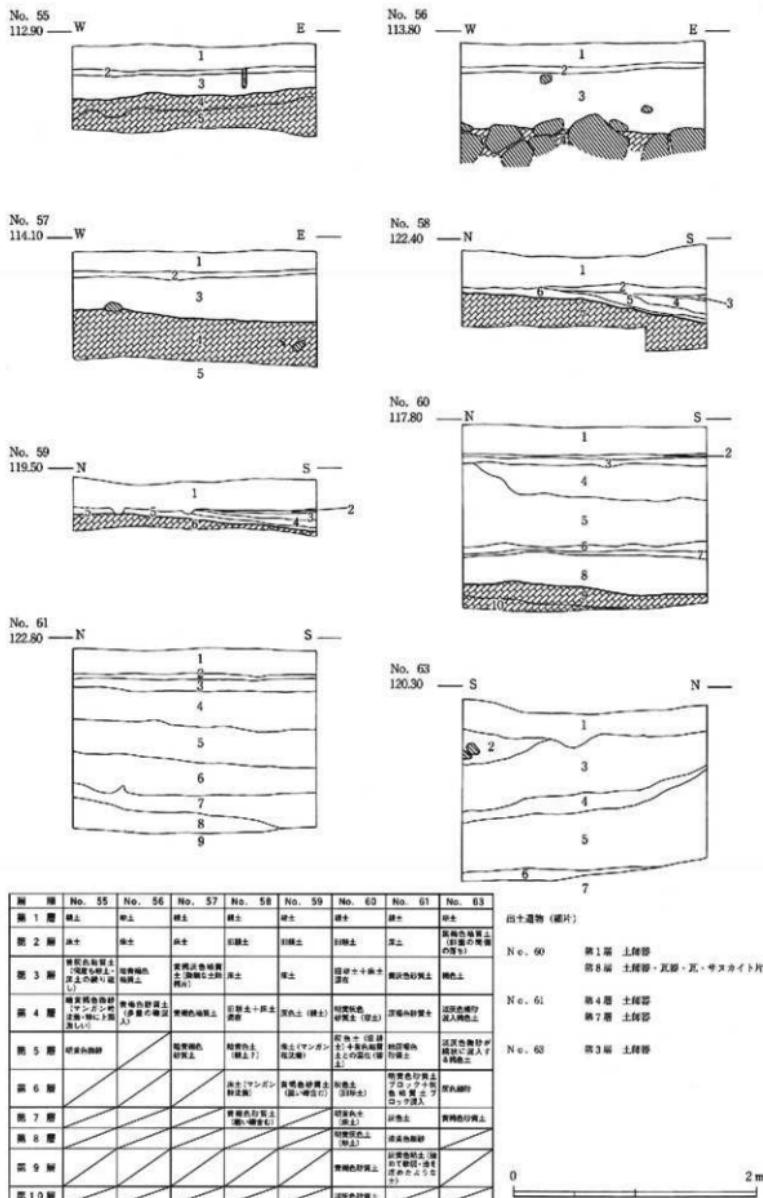
第11図 トレンチNo. 31~38断面図



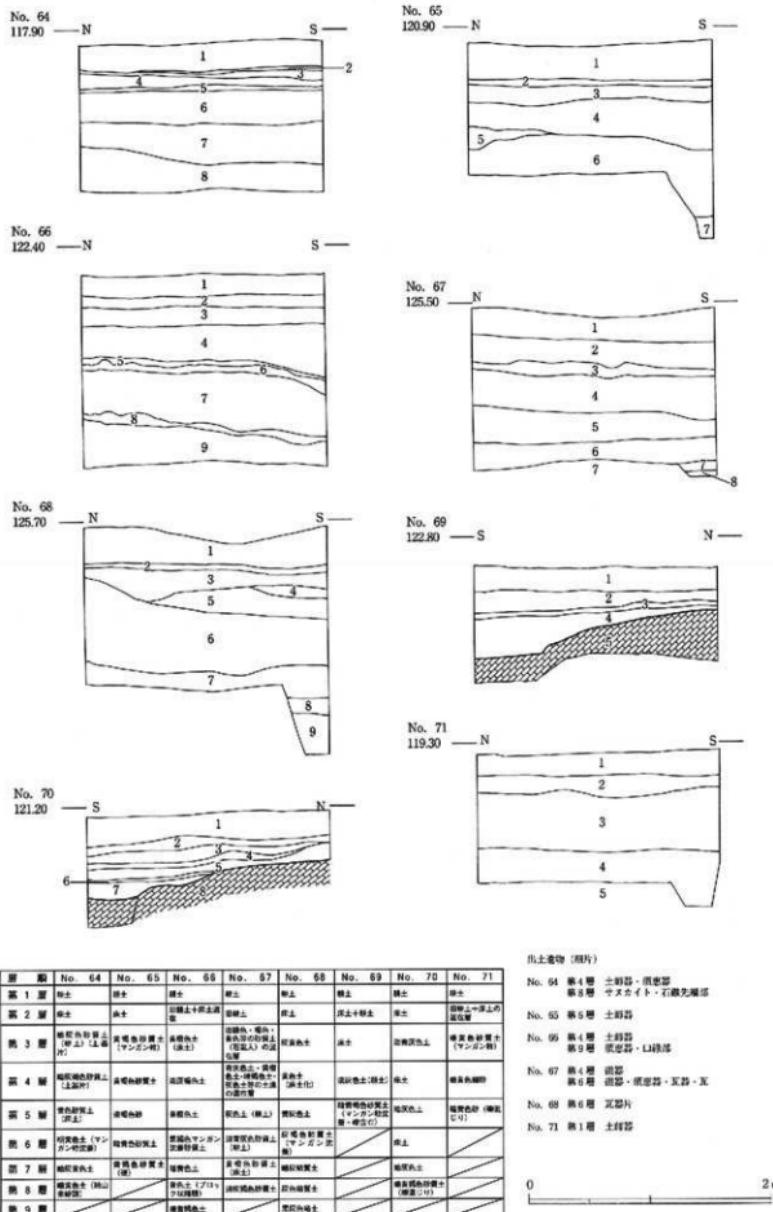
第12図 トレンチNo. 39~46断面図



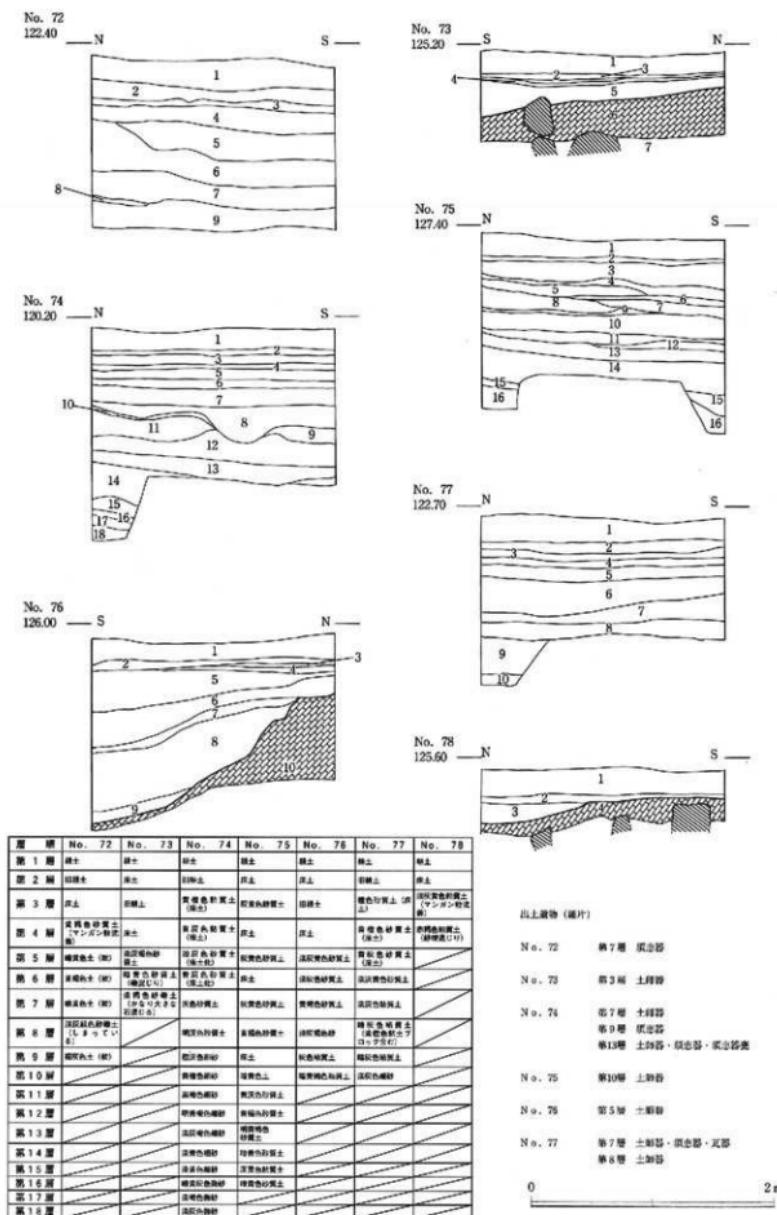
第13図 トレンチNo.47~54断面図



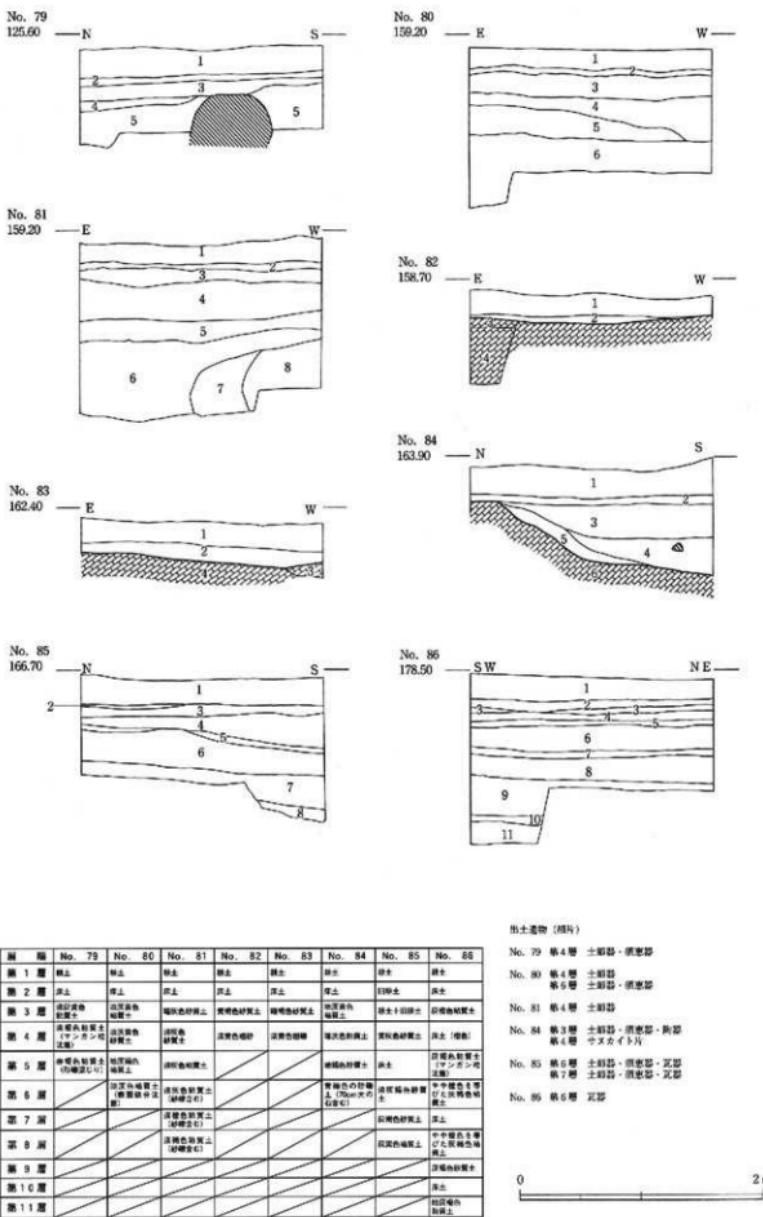
第14図 トレンチNo. 55~61、63断面図



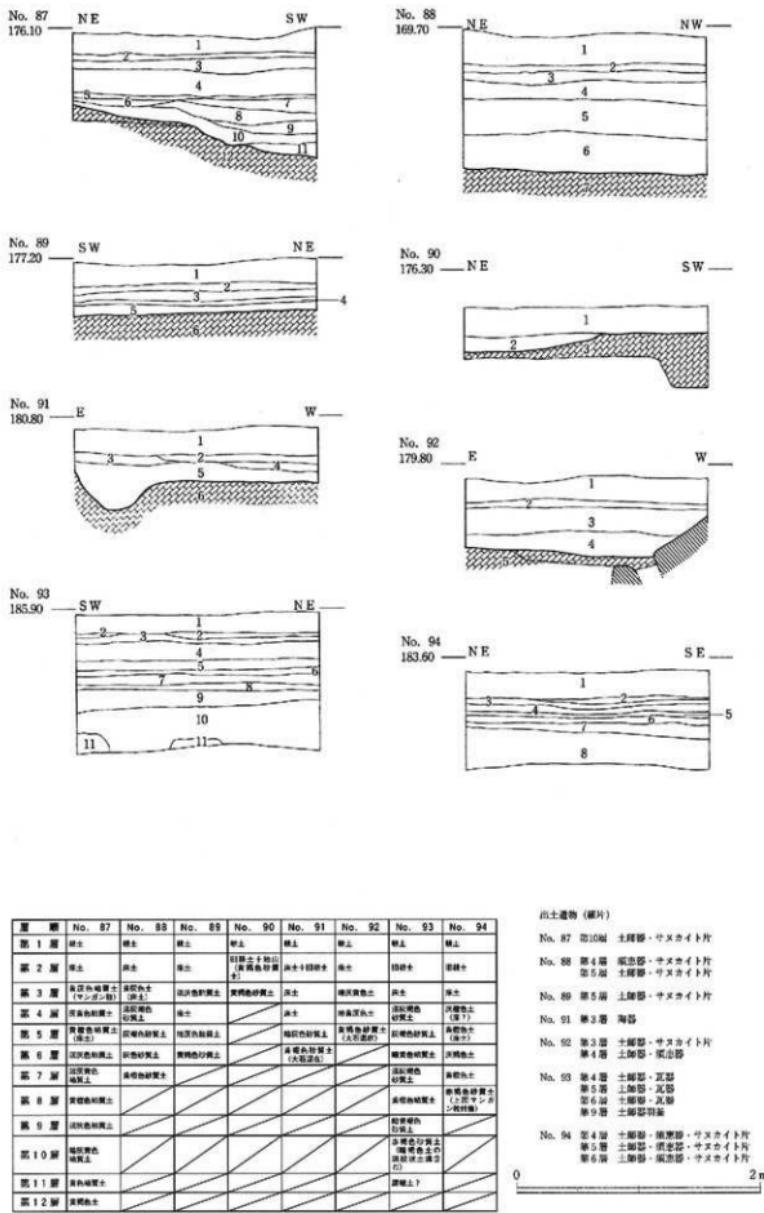
第15図 トレンチNo. 64～71断面図



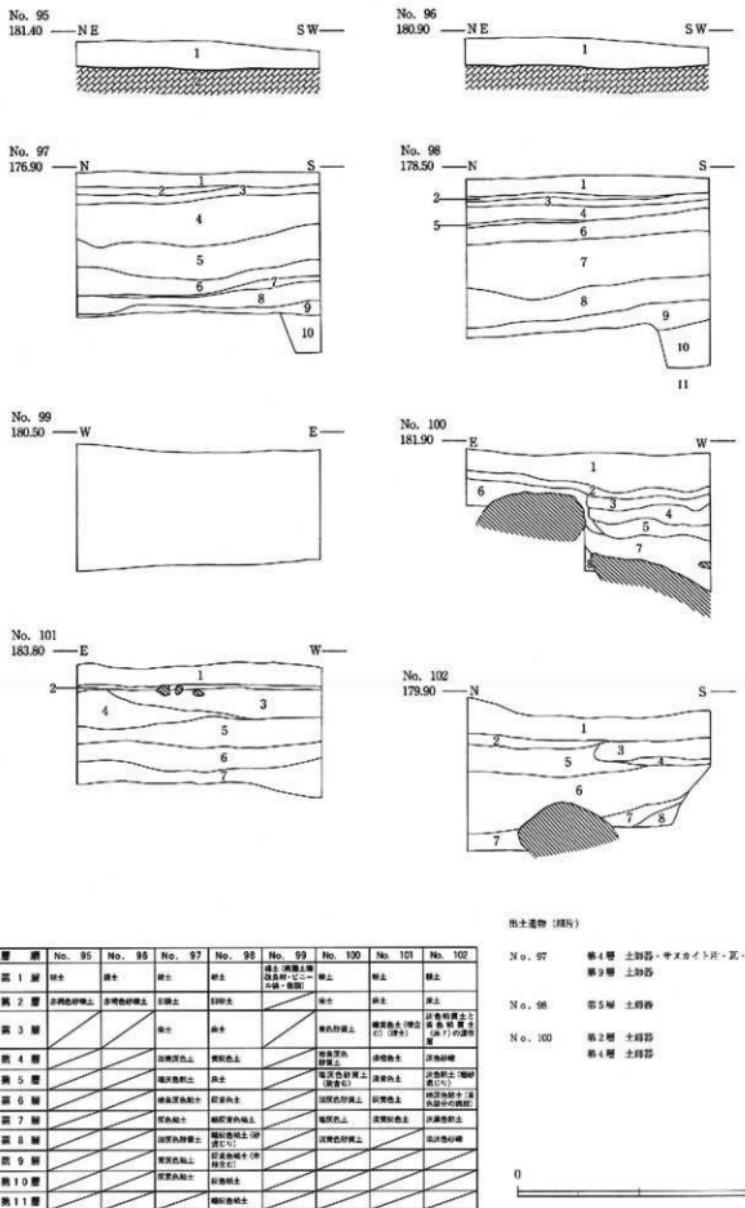
第16図 トレナヘNo. 72~78断面図



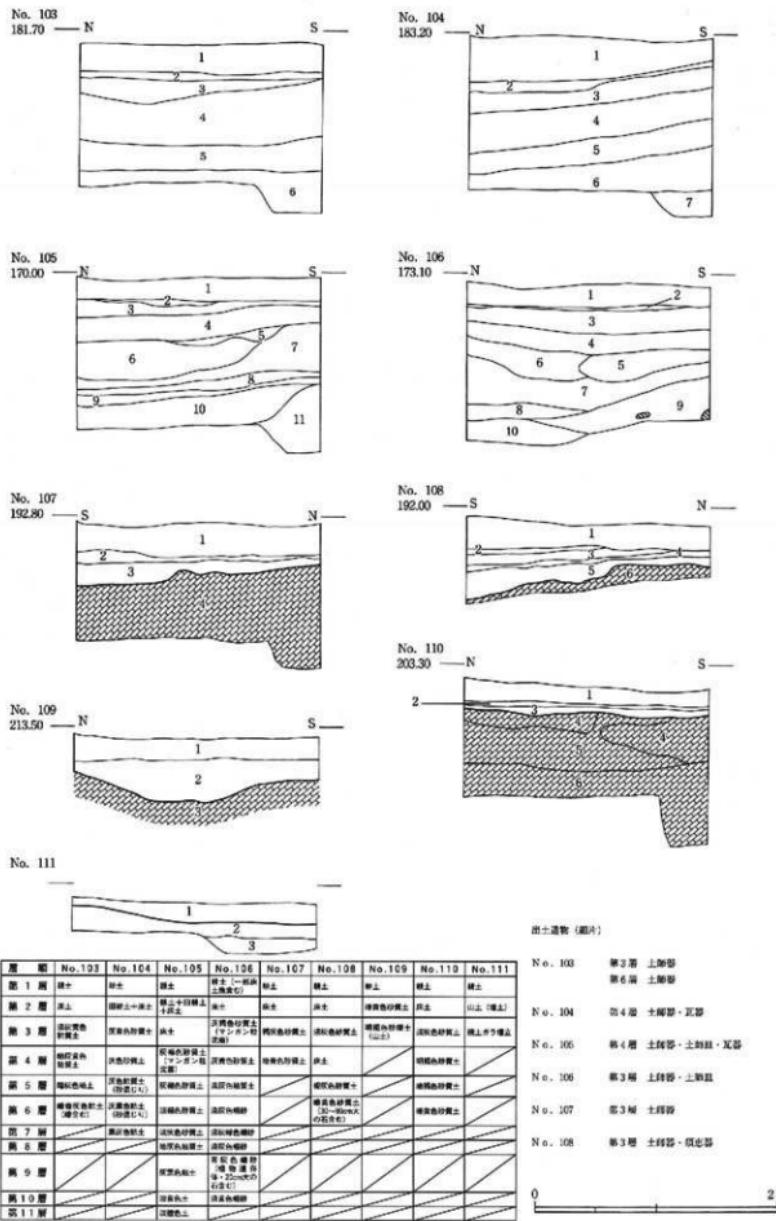
第17図 トレンチNo. 79~86断面図



第18図 トレンチNo. 87～94断面図



第19図 トレンチNo. 95~102断面図



第20図 トレンチNo. 103~111断面図

III. 桐山地区

1. 位置と環境

桐山遺跡は、大阪府南河内郡千早赤阪村桐山に所在し、千早川とその支流である足谷川に挟まれた標高約130m～170mの金剛山系から南北方向にのびる丘陵上に位置する。

遺跡の中央部の丘陵上には、「楠木邸伝説地」の石柱が立ち、周囲の田畠には「古屋敷」、「井戸尻」、「花屋敷」、「光明院」等楠木正成に由来のするとされる小字名が残る。

2. 調査の方法 (第21図～29図までの縮尺は、横1/20、縦1/50である。)

今回の調査は、事業地内に30ヶ所(2m×2m)のトレンチと農道計画部分において旧府立富田林高校千早赤坂分校跡地内に1ヶ所(2m×100m)とさらに「楠木邸伝説地」の石碑の建つ一角に6ヶ所のトレンチを設定した。

NO. 1 調査地の北端に位置するもので斜面地の狭小な畑地に設定した。耕作土、床土を除去すると、黄灰色砂礫層からなる平坦な地山(130.97m)を検出した。

遺物は、耕作土内から土師器、須恵器(32、34)などを出土した。

NO. 2 耕作土、床土を除去すると①暗灰色粘質土が見られる。地山(143.45m)は淡褐色粘質土(砂礫層混じり)である。

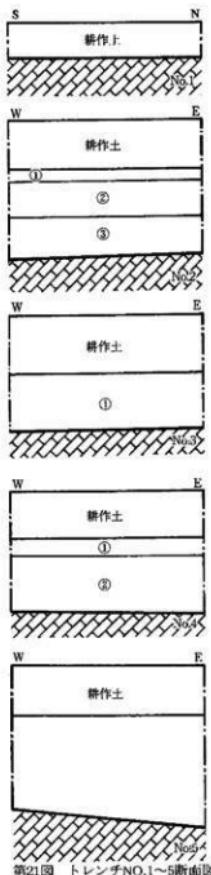
遺物は、須恵器、土師器、瓦器(16)などが出土した。

NO. 3 耕作土、床土を除去すると①灰色粘質土(旧耕作土)、②黄灰色粘質土、③灰褐色粘質土の順に見られる。地山(145.65m)は茶褐色粘質土である。

遺物は、須恵器、土師器などが出土した。

NO. 4 耕作土、床土を除去すると①暗灰色粘質土(旧耕作土)、②黄灰色粘質土に見られる。地山(145.17m)は黄褐色粘質土である。遺物は、土師器小皿(14)、須恵器(30)、瓦器などが出土した。

NO. 5 耕作土、床土を除去すると①暗灰褐色粘質土(旧耕作土)、②灰色粘質土に見られる。地山(146.25m)は橙色粘質土である。遺物は、瓦器、黒色土器、サヌカイト製石鏃(21)、サヌカイト片(22、23、27)などが出土した。



第21図 トレンチNO.1～5断面図

NO. 6 耕作土、床土を除去すると、灰黄色粘質土からなる平坦な地山(144.23m)を検出した。

遺物は、出土しなかった。

NO. 7 耕作土、床土を除去すると、①灰色粘質土(旧耕作土)、②黄灰色粘質土(旧床土)、③灰黄灰色粘質土、④暗灰色粘質土の順に見られる。下層の二層は、谷の埋土である。地山は、確認できなかった。

遺物は、土師器などが出土した。

NO. 8 耕作土、床土を除去すると、①淡灰褐色粘質土が見られる。暗灰褐色粘質土からなる地山(152.70m)は、北側で傾斜する。遺物は、出土しなかった。

NO. 9 耕作土、床土を除去すると、橙灰色砂(礫混じり)からなる平坦な地山(154.44)を検出した。

遺物は、出土しなかった。

NO. 10 耕作土、床土を除去すると①褐灰色粘質土、②暗褐色粘質土、③暗褐灰色粘質土の順に見られる。地山(158.00m)は暗褐灰色粘質土(礫混じり)で西に向かって傾斜する。

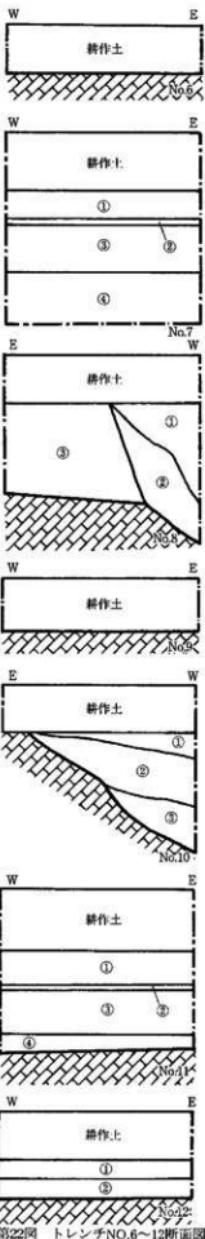
遺物は、土師器、須恵器、瓦器、軒丸瓦(20)、瓦、サヌカイト片(24、26)などが出土した。

NO. 11 耕作土、床土を除去すると①灰色粘質土(旧耕作土)、②暗褐色粘質土(旧床土)、③黄灰色粘質土、④暗黄灰色粘質土の順に見られる。地山(149.53m)は黄茶色粘質土である。

遺物は、土師器、須恵器、瓦器、サヌカイト片(25)などが出土した。

NO. 12 耕作土、床上を除去すると①灰色粘質土(旧耕作土)、②褐色粘質土(旧床土)の順に見られる。地山(151.90m)は灰褐色粘質土である。

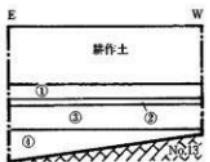
遺物は、出土しなかった。



第22回 トレンチNO.6~12断面図

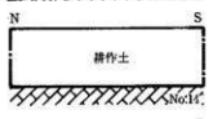
NO. 13 耕作土、床土を除去すると①褐灰色粘質土(旧耕作土)、②暗褐色粘質土(旧床土)、③暗灰色粘質土、④灰褐色粘質土の順に見られる。地山(151.80m)は暗褐色粘質土(礫混じり)で緩やかに東に向かって傾斜する。

遺物は、土師器、瓦器、瓦、サヌカイト片(28、29)などを出土した。



NO. 14 耕作土、床土を除去すると淡橙灰色粘質土からなる平坦な地山(152.80m)を検出した。

遺物は、出土しなかった。



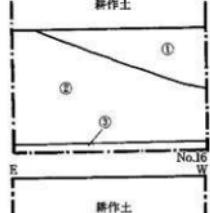
NO. 15 耕作土、床土を除去すると①淡灰褐色粘質土、②褐灰色粘質土、③暗褐灰色粘質土の順に見られる。地山(154.35m)は淡褐色粘質土(礫混じり)で東に向かって傾斜する。

遺物は、土師器、須恵器(31)、瓦器、瓦などを出土した。



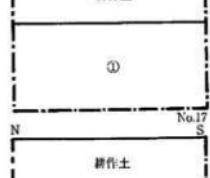
NO. 16 耕作土、床土を除去すると①褐灰色粘質土、②暗褐色粘質土、③暗褐灰色粘質土の順に見られる。地山(148.94m)は暗褐色粘質土(礫混じり)で南北方向には水平であるが、西に向かって傾斜する。

遺物は、土師器甕(18)、須恵器(33)、瓦器、瓦などを出土した。



NO. 17 耕作土、床土を除去すると①暗灰色粘質土が見られる。狹小な谷地形の中にトレーナーを設定したために地山は確認できなかった。GL- 60cmまで掘削した。

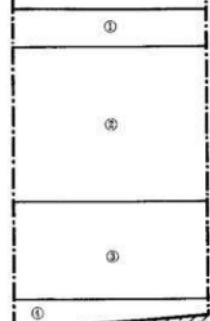
遺物は、土師器、瓦器などを出土した。



NO. 18 耕作土、床土を除去すると①暗灰色粘質土(旧耕作土)、②茶褐色粘質土、③暗灰褐色粘質土、④淡灰褐色粘質土の順に見られる。地山(159.42m)は灰褐色粘質土である。

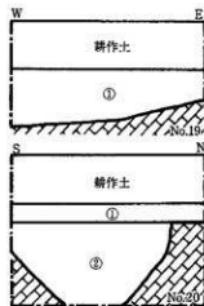
遺物は、土師器小皿(15)、土師器羽釜(19)、須恵器、瓦などを出土した。

本トレーナー付近は寺院跡の伝承があり、瓦片が多量に出土したことからも裏付けられるかもしれない。

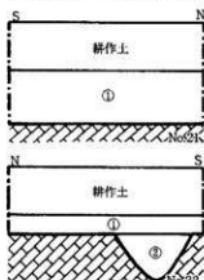


第23図 トレーナーNO.13~18断面図

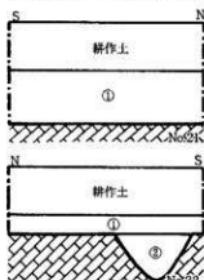
NO. 19 耕作土、床土を除去すると①暗灰褐色粘質土が見られる。地山(169.88m)は褐色粘質土で西に向かって緩やかに傾斜する。遺物は、土師器、須恵器、瓦器、瓦などが出土した。



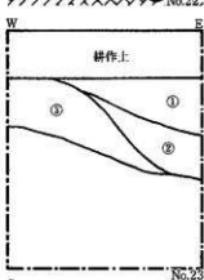
NO. 20 耕作土、床土を除去すると①暗灰色粘質土(旧耕作土)が見られる。地山(158.00m)は褐色粘質土である。地山面から土坑を検出した。遺物は、土坑内から瓦器が出土した。



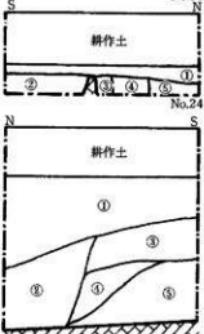
NO. 21 耕作土、床土を除去すると①暗褐色粘質土が見られる。地山(157.46m)は褐灰色粘質土(礫混じり)である。遺物は、土師器、須恵器、瓦器、瓦などを出土した。



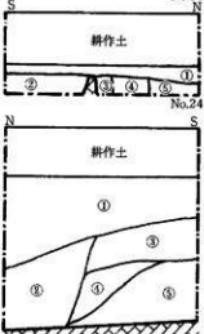
NO. 22 耕作土、床土を除去すると①灰褐色粘質土(旧耕作土)が見られる。地山(165.80m)は茶褐色粘質土(礫混じり)である。遺物は、土師器、須恵器などを出土した。



NO. 23 耕作土、床土を除去すると①灰黄色粘質土(旧耕作土)、②暗灰茶色粘土、③灰茶色粘質土、④暗灰色粘土、⑤暗青灰色粘土の順に見られる。狭小な谷地形の中にトレンチを設定したために地山は確認できなかった。GL-1.0mまで掘削した。



NO. 24 耕作土、床土を除去すると①暗灰色粘質土が見られる。地山は淡灰黄色粘質土である。地山面から柱穴、土坑等の遺構を多数検出した。地山(168.40m)は淡灰黄色粘質土である。遺構の埋土は、②暗灰色粘質土、③淡灰色砂質土、④灰色砂質土、⑤暗灰色砂質土である。



遺物は、暗灰色粘質土から須恵器、瓦器、瓦などを出土した。

第24図 トレンチNO.19～25断面図

NO. 25 耕作土、床土を除去すると①灰色粘質土(旧耕作土)、②灰褐色粘質土、③茶灰色粘質土の順に見られる。地山(172.00m)は茶褐色粘質土である。

遺物は、土師器、須恵器、瓦器小皿(17)などが出土した。

NO. 26 耕作土、床土を除去すると地山(146.80m)を確認した。

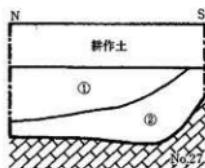
橙色粘質土である。

遺物は、出土しなかった。



NO. 27 耕作土、床土を除去すると①暗灰色粘質土(旧耕作土)、
②褐灰色粘質土の順に見られる。地山(154.35m)は暗褐灰色粘質
土(礫混じり)で、北に向かって緩やかに傾斜している。

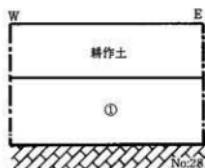
遺物は、土師器、瓦器などが出土した。



NO. 28 耕作土、床土を除去すると①灰褐色粘質土が見られる。

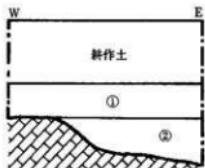
地山(157.10m)は淡褐灰色粘質土(礫混じり)である。

遺物は、須恵器(35)、瓦器、瓦などが出土した。



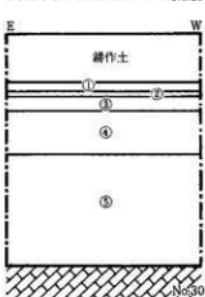
NO. 29 耕作土、床土を除去すると①暗灰色粘質土(旧耕作土)、
②淡灰褐色粘質土の順に見られる。地山(165.48m)は橙色粘質土
(礫混じり)である。

遺物は、出土しなかった。



NO. 30 耕作土、床土を除去すると①暗灰色粘質土(旧耕作土)、
②橙灰色粘質土(旧床土)、③暗灰褐色粘質土上、④暗灰色粘質土、
⑤灰色粘質土の順に見られる。地山(162.90m)は灰褐色粘質土(礫
混じり)である。

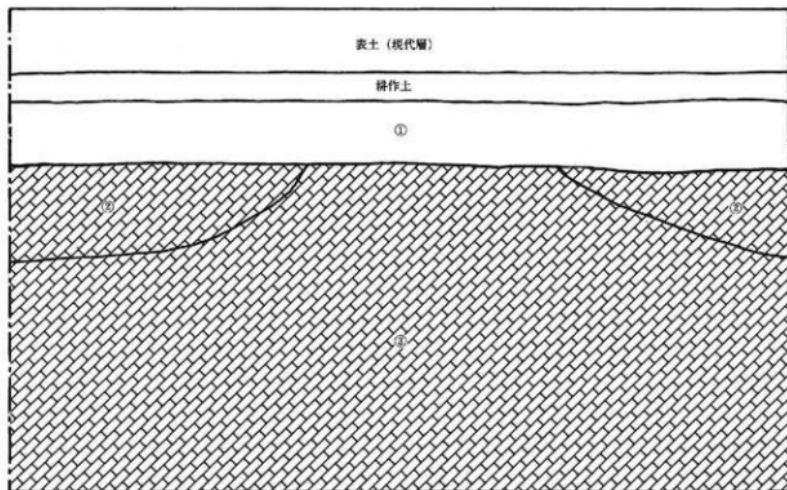
遺物は、土師器、須恵器(36)、瓦器、瓦などが出土した。



NO. 31 農道建設予定地内の旧府立富田林高校千早赤阪分校内
に設置した東西方向のトレンチ(幅2.0m、長さ100m)である。

トレンチ西端から約60m付近までは、分校建築時の造成あるいは旧校舎による攪乱を大きく受けており、上層の現代層を除去する
と基本的には茶灰色粘質土からなる地山が露出した。60m付近
より東側については、従来の地形が西に比べて約1.5m低かったために、旧耕作土層が現代層の下に残っていた。(旧分校の南に隣接する水田を見ると、この付近で西側の水田より東側の水田が低くなっている。)この付近からトレンチ東端までの層序は、西側と同様の現代層の下に耕作土、床
土が残り、その直下に①灰色粘質土(旧耕作土)、地山と続く。地山(147.40m)は、②灰色シルトと
③部分的に灰色砂礫となる。

第25図 トレンチNo.26～30断面図



第26図 トレンチNO.31断面図

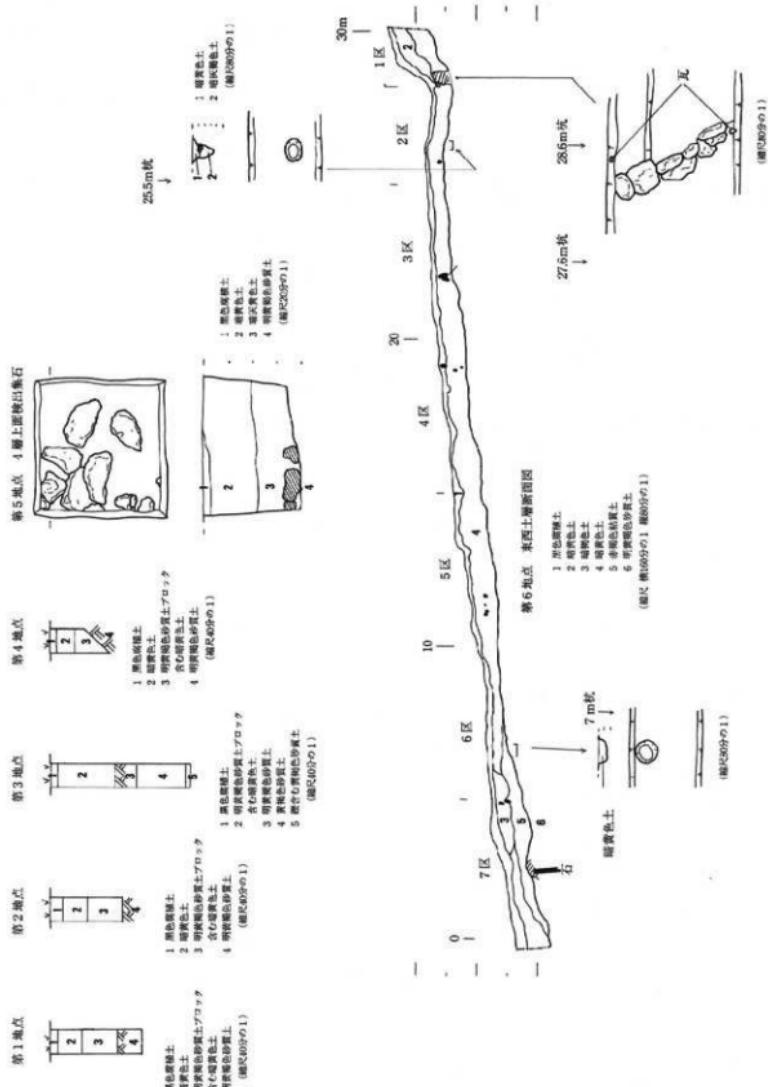
NO. 32 大正10年の伝説地石碑の建つ柿木畑とその東の一段高い蜜柑畑を調査対象とした。蜜柑畑には1m四方のグリッド5ヶ所(第1～5区)、柿木畑には東西方向の幅1m、長さ30mのトレンチを1ヶ所(第6区)設定した。

1) 遺物の検出 蜜柑畑では第5地点の第2層から中世瓦片、第3層から土師器、瓦質土器片が出土している。柿木畑では第3・4層から各区にわたって遺物の出土をみた。内訳は以下のとおりである。

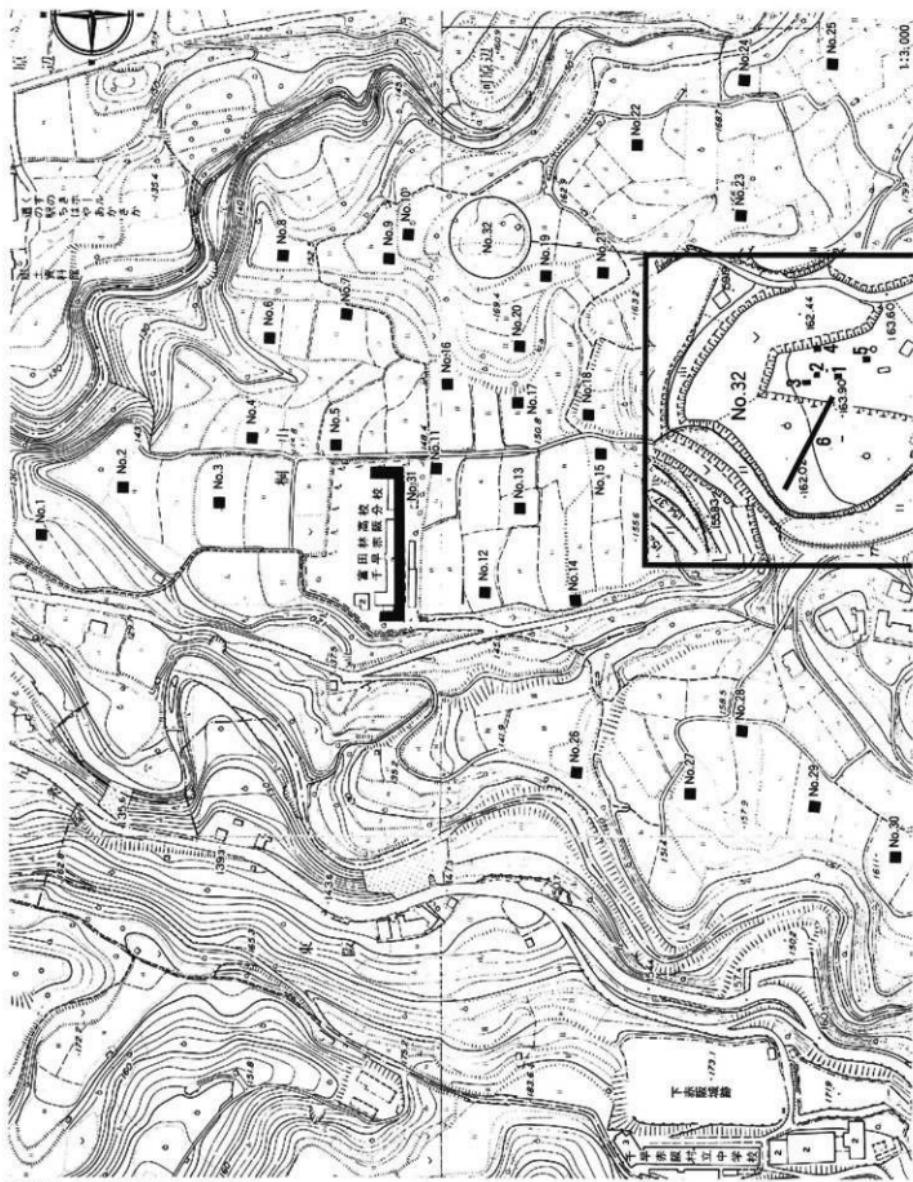
- 1区 第4層 瓦器、磁器、丸瓦
- 2区 第4層 須恵器、瓦(近世～近代?)
- 3区 第4層 土師器、磁器
- 4区 第4層 瓦質土器、サヌカイト石鱗片
- 5区 第4層 土師器、瓦器、平瓦
- 6区 第4層 土師器、瓦器、瓦(近代)
- 7区 第3層 土師器、瓦器(高台退化)、サヌカイト片
第4層 瓦器、磁器(近代?)

2) 遺構の検出 蜜柑畑では第5地点で地山面上に10～20cmの長手の石の集積が認められた。蜜柑畑の他の地点ではみられなかった出土遺物とともに注意される。

柿木畑(第6地点)では1区と2区の間の段差に沿って土留め用の2段の石積みが認められ、その周辺で中世瓦片が出土した。また、2区と6区では径30cm程度のピットが検出され、6区のピットからは須恵器片が出土した。



第27図 No. 32(「楠公邸傳説地」石碑周辺)、調査区断面・平面図



第28図 桐山地区トレンチ位置図

報告書抄録

| | | | | | | |
|--------|--|------|--|--|--|--|
| ふりがな | ひらいしちく・きりやまちくはっくつちょうさがいよう | | | | | |
| 書名 | 半石地区・桐山地区発掘調査概要 | | | | | |
| 副書名 | 河南町所在平石古墳群の調査・千早赤阪村桐山遺跡の調査 | | | | | |
| 卷次 | | | | | | |
| シリーズ名 | 大阪府埋蔵文化財調査概要 | | | | | |
| シリーズ番号 | | | | | | |
| 編著者名 | 橋本哲 | 橋本高明 | | | | |
| 編集機関 | 大阪府教育委員会 | | | | | |
| 所在地 | 〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL 06-6941-0351 | | | | | |
| 発行年月日 | 2000年3月 | | | | | |

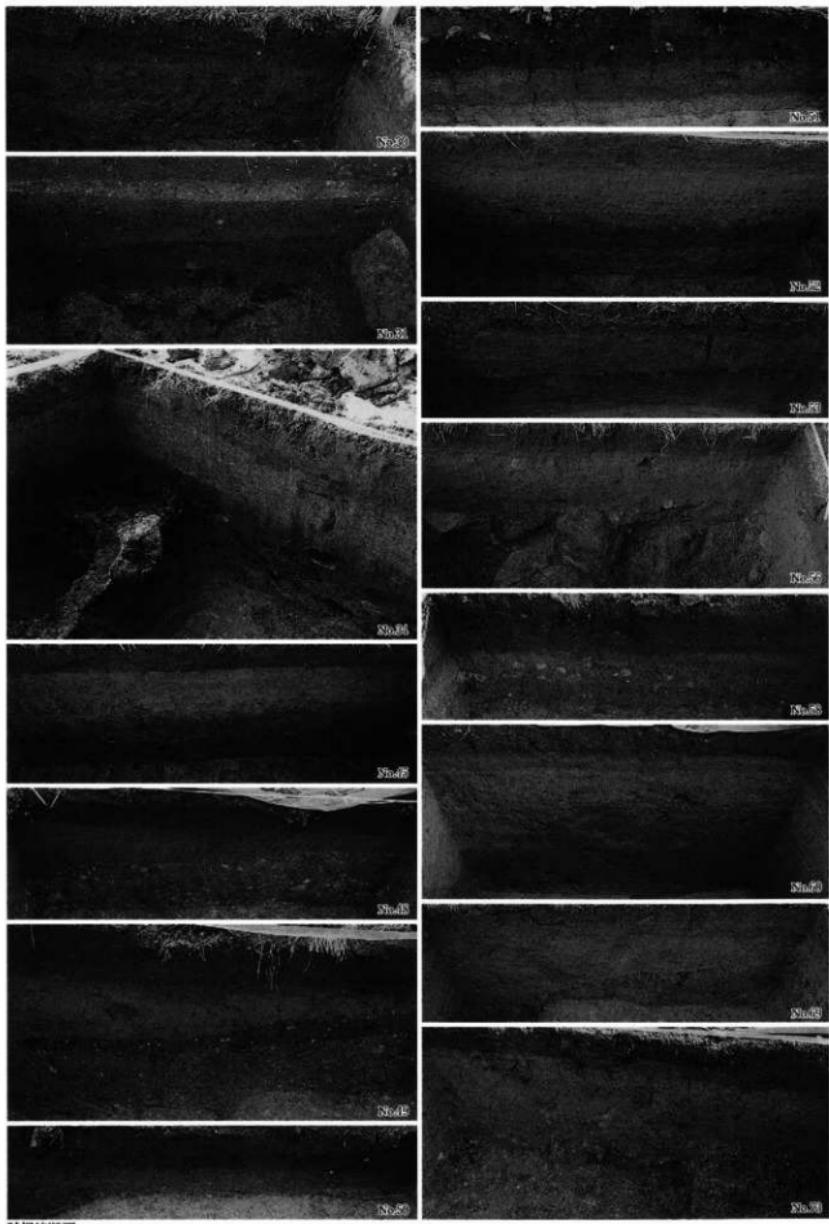
| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 東経 ° ′ ″ | 調査期間 | 面積 (m ²) | 調査原因 |
|-------|-------------|-------|------|-------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | |
| 平石地区 | 河南町加納・平石 | 27382 | 24 | 135 | 1999年9月 ～2000年 3月 | 200 | 中山間地域 総合整備事 業「南河内 ごせ地区」 |
| | | | 37 | 39 22 | | | |
| 桐山地区 | 千早赤阪村 桐山 | 27383 | 30 | 135 37 | 1999年7月 ～2000年 3月 | 355 | |
| | | | | | | | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | | 主な遺物 | 特記事項 |
|-------|-----|---------|-----------------|------------------------------|-----------------------|
| 平石地区 | 古墳他 | 古墳時代～中世 | 古墳 | 土師器・ 須恵器・ 瓦器・陶 磁器 | 新発見の終末期古墳 黄褐色有蓋円面硯 |
| 桐山地区 | 集落 | 中世 | 柱穴・ 土坑・ 溝 | 土師器・ 須恵器・ 瓦器・陶 磁器・瓦 | |



第29図 桐山遺跡現況図 (1 / 1000)

図 版



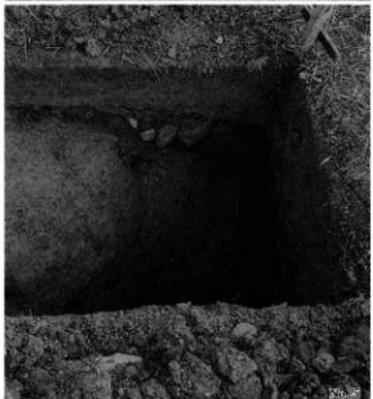
試掘坑断面



試掘坑断面



加納2号墳周辺試掘坑断面



アカゲ古墳周辺試掘坑断面

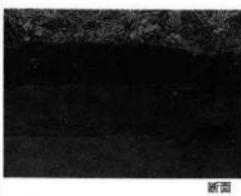




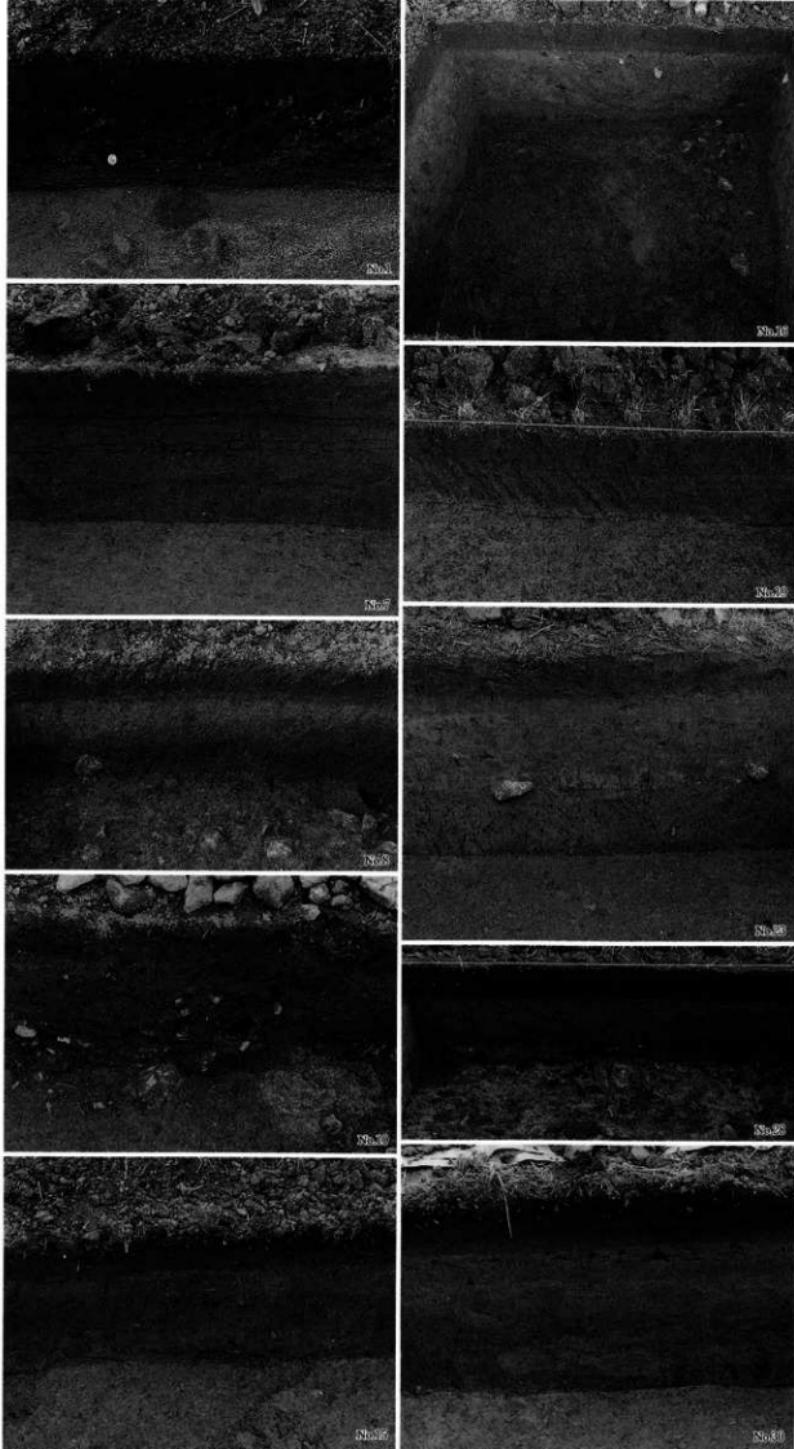
No.1 全景 (東北→西南)
No.2 版築盛土状况
No.3 天井石出土状况 (南→北)
No.4 同 夕 (北→南)
No.5 南端部盗掘擾乱坑

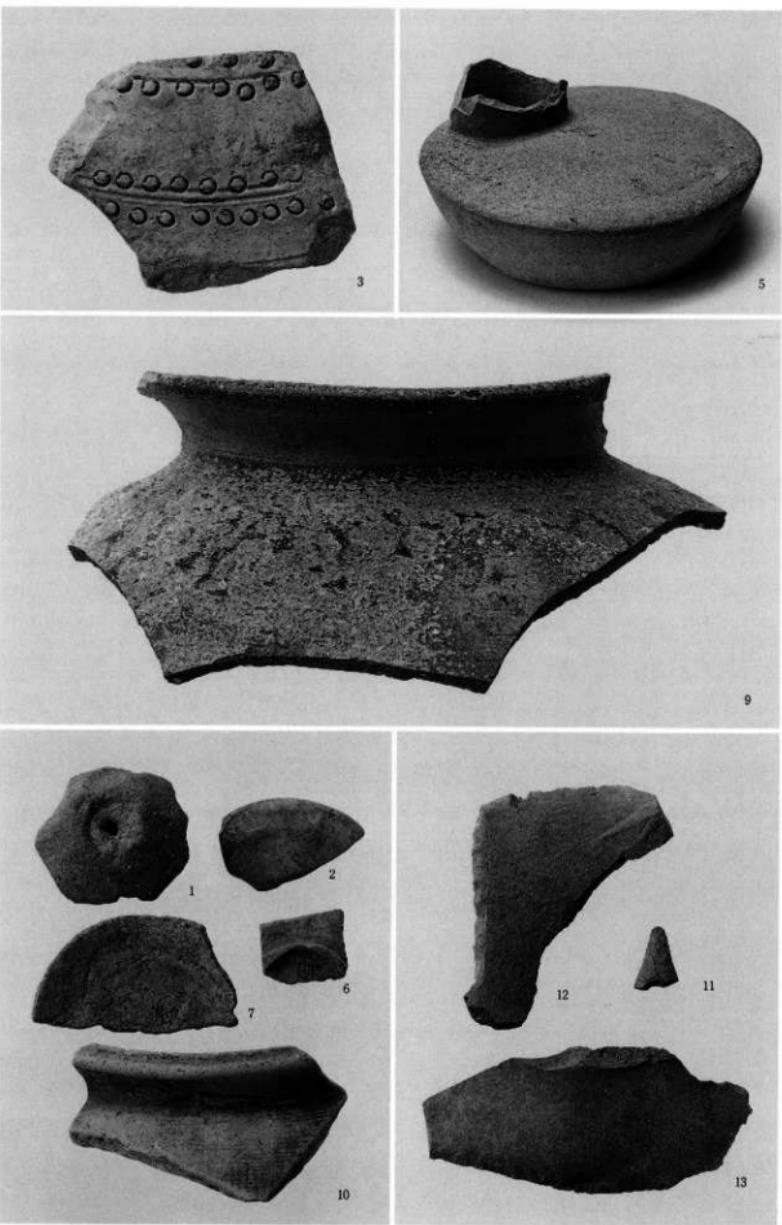
図版七
桐山地区

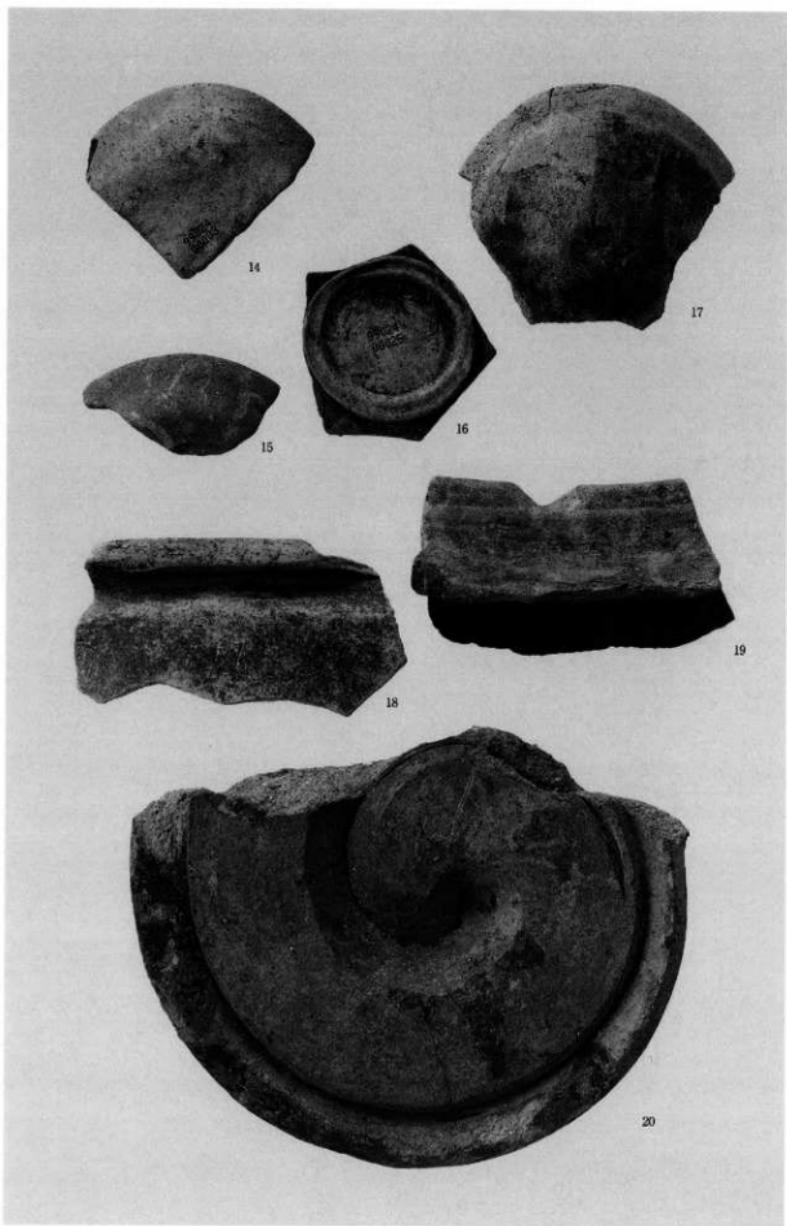




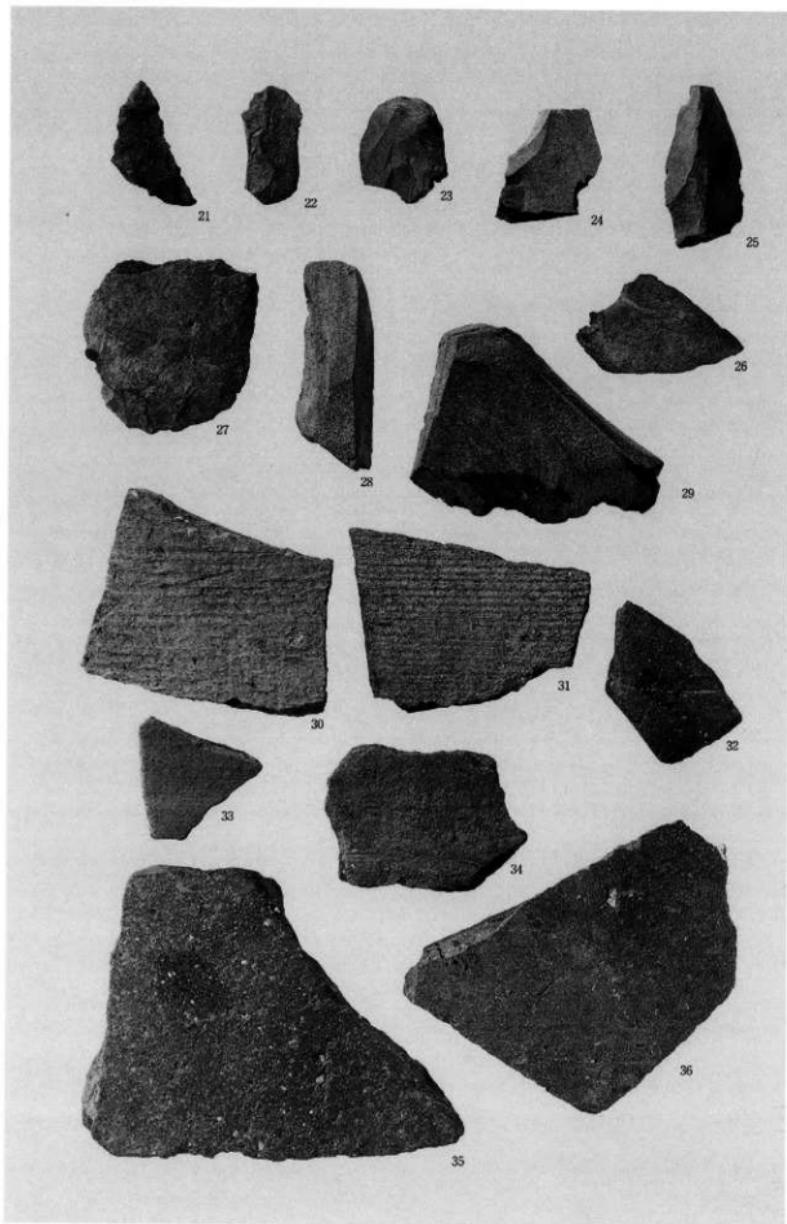
W から E







圖版二
桐山地區出土遺物
(II)



平石地区・桐山地区発掘調査概要
—阿南町所在平石古墳群の調査・千里赤阪村桐山遺跡の調査—

2000年3月

発行 大阪府教育委員会
〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目
TEL. 06-6941-0351

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所
〒537-0002 大阪府大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL. 06-6976-8761

